

青年の自立・社会性に関する調査報告書(概要版)

調査実施の概要

1 調査の目的

青年自身が日頃どういう判断基準を持って生活しているのか、また、社会に出るまでの準備期間をどのように捉えているのかなどについて、15歳から29歳までの青年の生活実態と意識を探るとともに、親子関係の現状と意識を探り、基礎的なデータを収集することで、今後の青少年健全育成事業への展開に資することを目的とする。

2 調査項目

青年票

- (1)生活実態(生活満足度、生活態度、生活習慣)
- (2)社会性(社会の中での自己評価、就業に対する意識、就業理由)
- (3)価値観(価値観及び社会規範意識)
- (4)人間関係(親との関係、友人関係)
- (5)自立性(親との同居理由、親元からの独立意識、親からの金銭援助、親への金銭援助)
- (6)思考(現在の悩み・将来の不安、将来の夢、犯罪に対する意識、青少年犯罪の原因)

親票

- (1)生活実態(生活満足度)
- (2)社会性(社会の中での自己評価)
- (3)価値観(価値観及び社会規範意識、家庭や社会の暮らし方)
- (4)親子関係(子どもとの関係)
- (5)思考(子どもに関する悩み・不安、犯罪に対する意識、青少年犯罪の原因)

3 調査設計

- (1)調査対象：東京都(島しょ部を除く)に居住する15歳から29歳までの青年男女及びその父親・母親
- (2)標本数：3,945標本
- (3)標本抽出方法：住民基本台帳に基づく層化無作為二段抽出法
- (4)調査方法：訪問留置、訪問回収法
- (5)調査期間：平成16年1月～平成16年2月
- (6)調査機関：財団法人 日本システム開発研究所

4 回収結果：有効回収標本数(率) 2,132標本(54.0%)

5 標本構成：N = 2,132 [青年票N=821 親票N=1,311]

青年票内訳

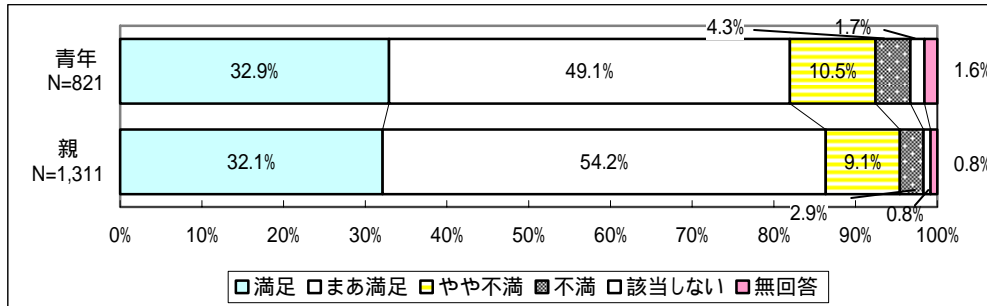
青年票	N = 821
高校在学期(15～18歳)	N = 175
大学在学期(19～22歳)	N = 158
第1次就業期(19～22歳)	N = 75
第2次就業期(23～24歳)	N = 118
家族形成期(25～29歳)	N = 285
年代区分不明	N = 10

調査結果の概要

1 現在の生活の満足度(対象 = 青年及び親)

(1)家庭生活

(本文:青年 P21、親 P106)

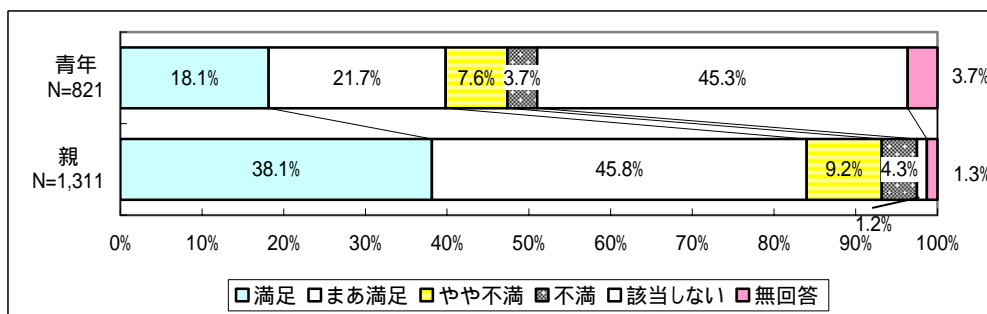


家庭生活に対する満足度は、『青年』『親』ともに8割を超えている。

- ・ 青年 = 満足 82.0% (満足 32.9% + まあ満足 49.1%)、親 = 満足 86.3% (満足 32.1% + まあ満足 54.2%)

(2)恋人(配偶者)との関係

(本文:青年 P22、親 P107)



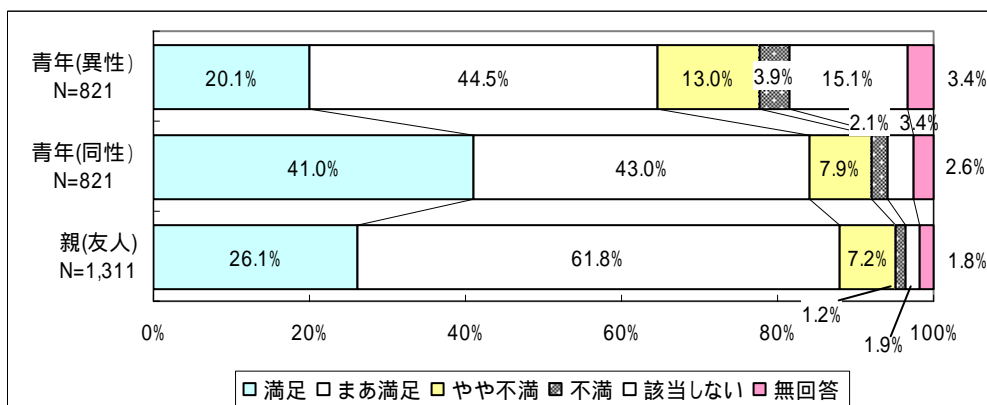
恋人(配偶者)との関係では、『青年』の満足度は約4割、恋人(配偶者)がいない人は45%。

『親』の場合は配偶者に対する満足度が8割を超えている。

- ・ 青年 = 満足 39.8% (満足 18.1% + まあ満足 21.7%)、親 = 満足 83.9% (満足 38.1% + まあ満足 45.8%)

(3)友人関係

(本文:青年 P23.24、親 P108)



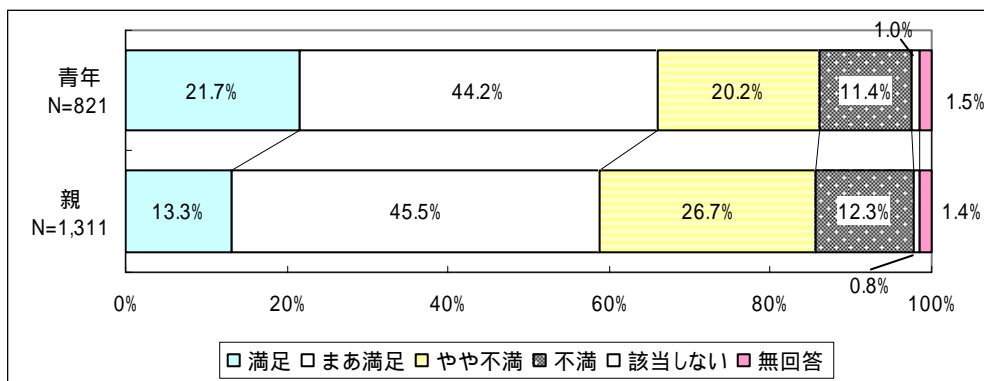
『青年』の友人関係は、異性の友人の場合65%が満足、同性の友人は満足度が8割を超えている。

『親』の友人関係は、約9割が満足。

- ・ 青年 = 異性 (満足 64.6% = 満足 20.1% + まあ満足 44.5%)
同性 (満足 84.0% = 満足 41.0% + まあ満足 43.0%)
- ・ 親 = 満足 87.9% (満足 26.1% + まあ満足 61.8%)

(4)現在の生活水準

(本文:青年 P25、親 P109)



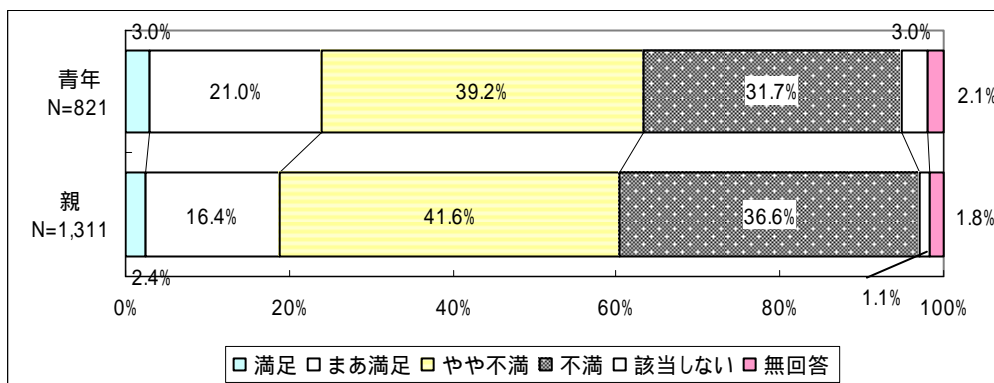
現在の生活水準については、『青年』(66%)の方が『親』(59%)よりも満足度が高い。

『青年』を年代別でみると、「満足」(満足+まあ満足)は、大学在学期(19~22歳)が75%と最も高く、第1次就業期(19~22歳)で56%と最も低く、その差は19ポイント。

・青年 = 満足 65.9%(満足 21.7% + まあ満足 44.2%)、親 = 満足 58.8%(満足 13.3% + まあ満足 45.5%)

(5)今の社会

(本文:青年 P26、親 P110)



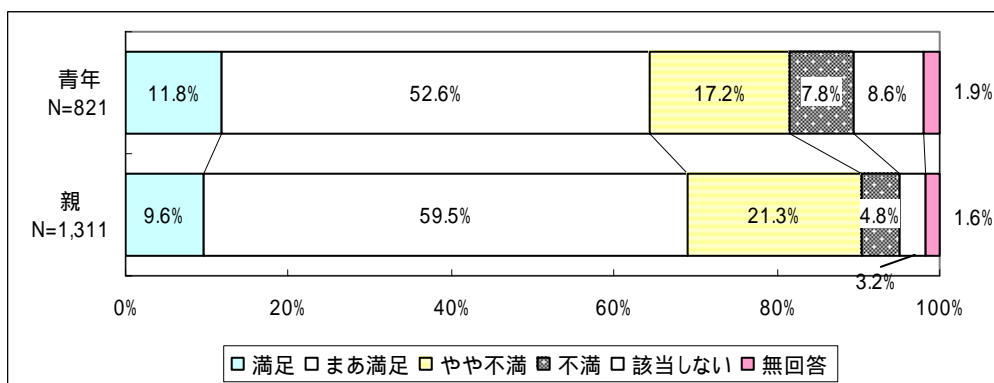
今の社会に対する不満は、『青年』(71%)よりも『親』(78%)の方が高い。

『青年』を年代別でみると、「不満」(不満+やや不満)は、第1次就業期(19~22歳)が79%と最も高く、第2次就業期(23~24歳)で61%と最も低く、その差は18ポイント。

・青年 = 不満 70.9%(不満 31.7% + やや不満 39.2%)、親 = 不満 78.2%(不満 36.6% + やや不満 41.6%)

(6)今住んでいる地域との関わり

(本文:青年 P27、親 P111)

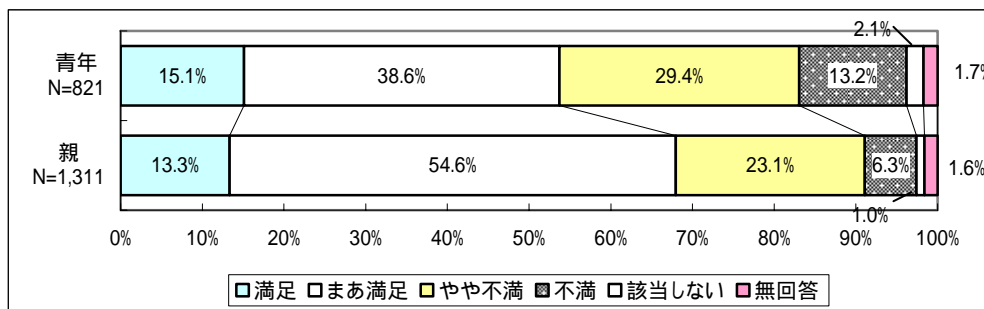


今住んでいる地域との関わりについては、『青年』の64%、『親』の約7割が満足している。

・青年 = 満足 64.4%(満足 11.8% + まあ満足 52.6%)、親 = 満足 69.1%(満足 9.6% + まあ満足 59.5%)

(7)今の自分の生き方

(本文:青年 P28、親 P112)



今の自分の生き方については、『青年』(54%)よりも『親』(68%)の満足度が高い。

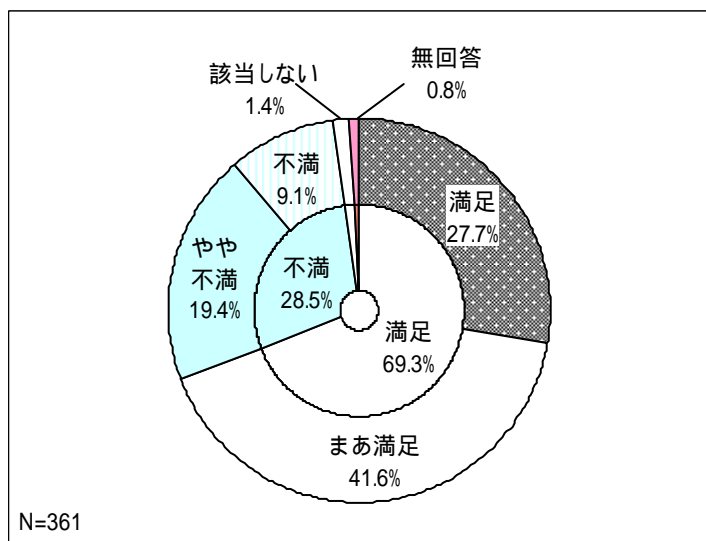
『青年』を年代別にみると、「満足」(満足+まあ満足)は、高校在学期(15~18歳)が58%と最も高く、第1次就業期(19歳~22歳)で45%と最も低く、その差は13ポイント。

・青年 = 満足 53.7%(満足 15.1% + まあ満足 38.6%)、親 = 満足 67.9%(満足 13.3% + まあ満足 54.6%)

2 学生生活について(対象 = 在学中の青年)

(1)学校生活

(本文:P29)

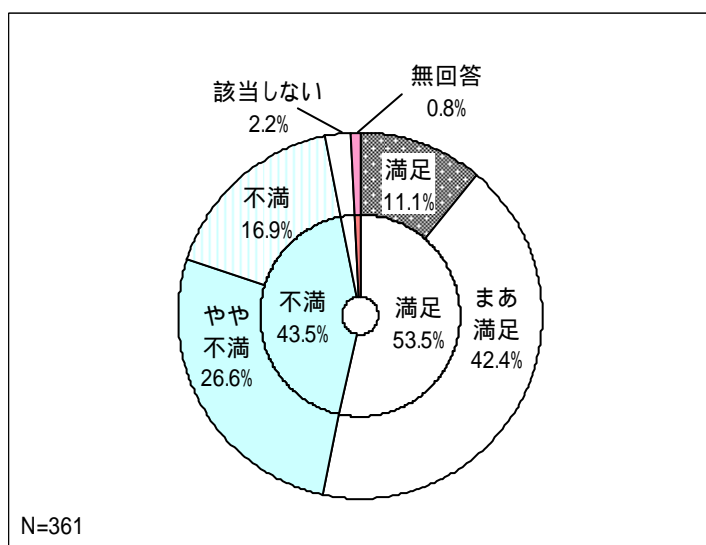


学校生活について約7割が満足

『青年』の約7割が学校生活に満足と回答し、不満と感じているのは約3割である。

(2)学校の授業

(本文:P30)



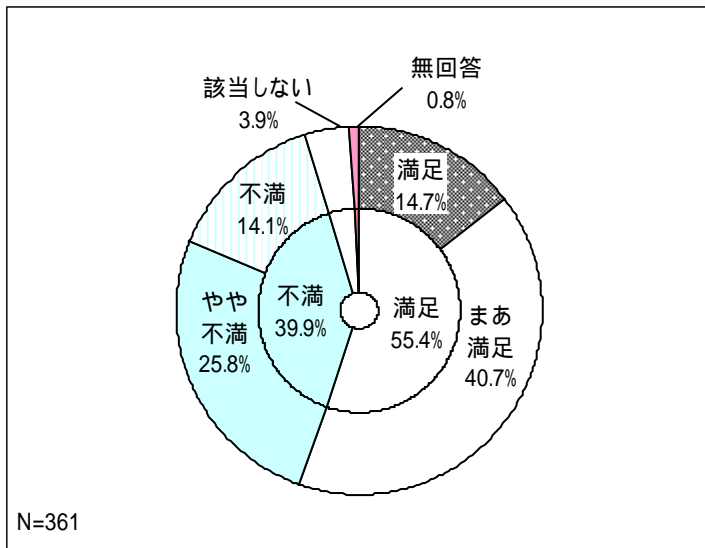
学校の授業については、

満足54%、不満44%

学校の授業に対しては、満足が不満を若干上回っている。

(3)学校の先生

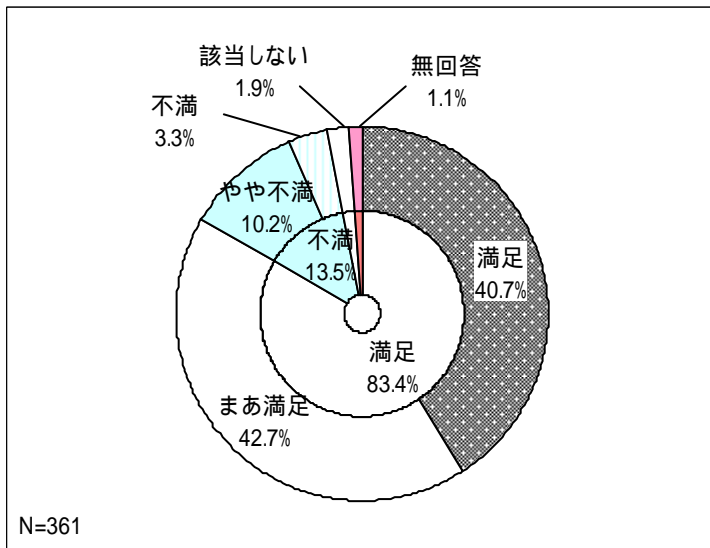
(本文:P31)



学校の先生については、満足 55%、不満 40%
学校の先生については、満足が不満を上回っている。

(4)学校の友人

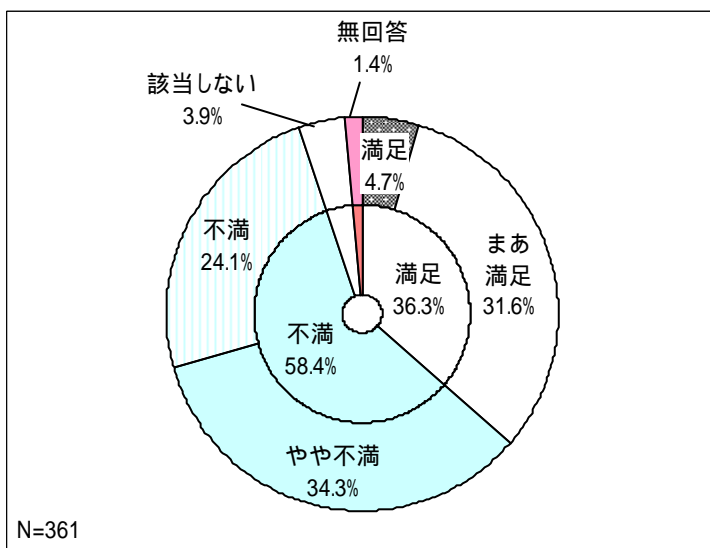
(本文:P32)



学校の友人に対する満足は8割を超える。
学校の友人に対して83%が満足と回答し、不満は14%である。

(5)現在の教育制度

(本文:P33)

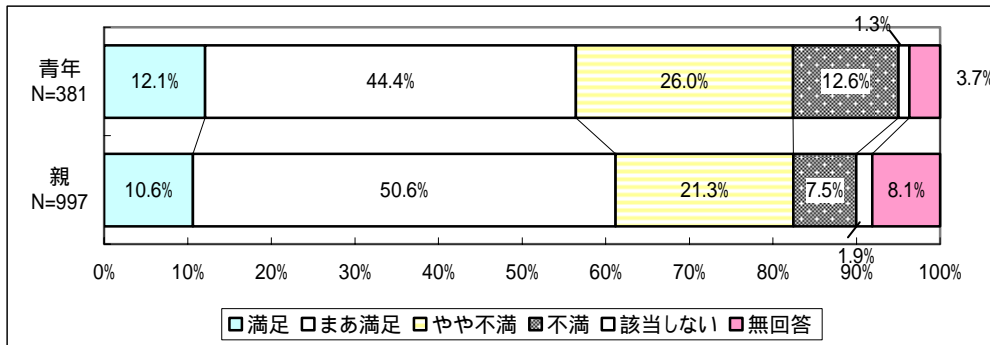


現在の教育制度に対する不満は約6割
現在の教育制度について、不満(58%)が満足(36%)を大きく上回っている。

3 職場生活(対象 = 就労している青年及び親)

(1)職場生活

(本文: 青年 P34、親 P113)

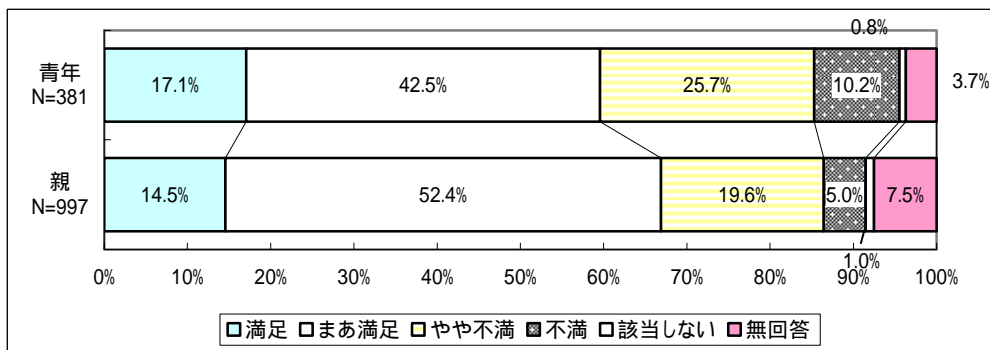


職場生活に対する満足度は、『親』は6割を超え、『青年』(57%)より若干高い。

- ・ 青年 = 満足 56.5% (満足 12.1% + まあ満足 44.4%)
- ・ 親 = 満足 61.2% (満足 10.6% + まあ満足 50.6%)

(2)仕事の内容

(本文: 青年 P35、親 P114)

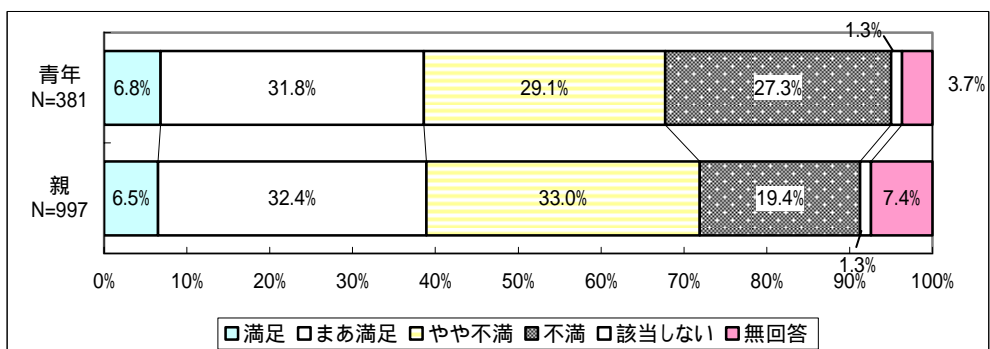


仕事の内容については、『親』の67%、『青年』の60%が満足と回答。

- ・ 青年 = 満足 59.6% (満足 17.1% + まあ満足 42.5%)
- ・ 親 = 満足 66.9% (満足 14.5% + まあ満足 52.4%)

(3)現在の収入

(本文: 青年 P36、親 P115)

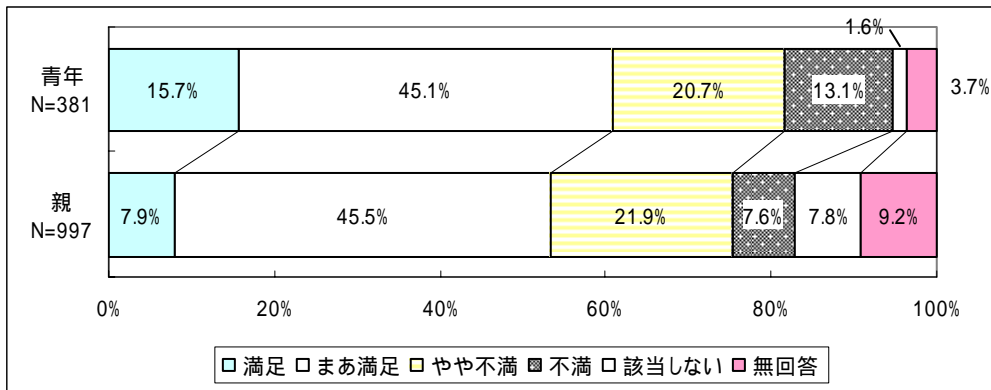


現在の収入について、『青年』の56%、『親』の52%が不満と回答。

- ・ 青年 = 不満 56.4% (不満 27.3% + やや不満 29.1%)
- ・ 親 = 不満 52.4% (不満 19.4% + やや不満 33.0%)

(4)同僚や上司

(本文:青年 P37、親 P116)



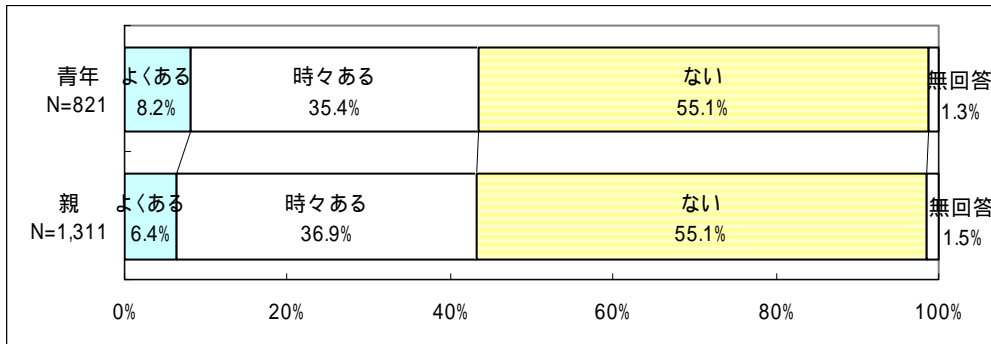
同僚や上司に対しては、『青年』の61%、『親』の53%が満足と回答。

- ・青年 = 満足 60.8% (満足 = 15.7% + まあ満足 45.1%)
- ・親 = 満足 53.4% (満足 = 7.9% + まあ満足 45.5%)

4 日頃感じること(対象 = 青年及び親)

(1)この世では自分しか信じられないという感じ

(本文:青年 P38、親 P117)

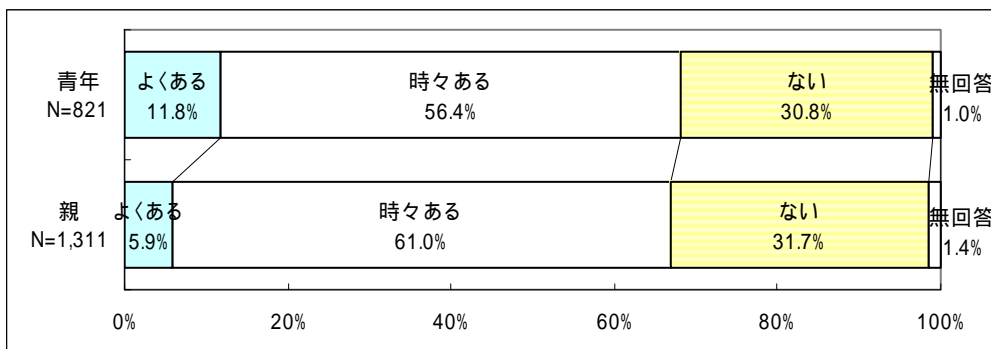


この世では自分しか信じられないと感じることが「ない」という回答が『青年』『親』ともに同率(55%)。「よくある」「時々ある」もほぼ同率。『青年』を年代別にみると、「ある」(よくある+時々ある)は、高校在学期(15~18歳)が49%と最も高く、第2次就業期(23~24歳)で37%と最も低い。

- ・青年 = 「ある」 43.6%(よくある 8.2% + 時々ある 35.4%)
- ・親 = 「ある」 43.3%(よくある 6.4% + 時々ある 36.9%)

(2)他人との付き合いがわずらわしいという感じ

(本文:青年 P39、親 P118)

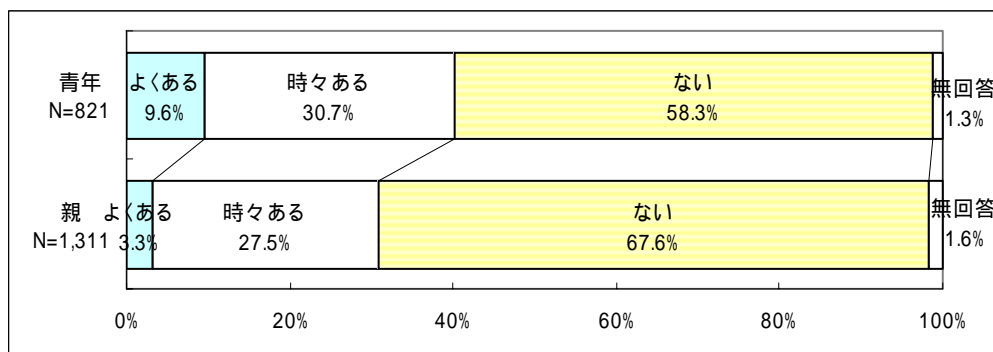


他人との付き合いがわずらわしいと感じることが「時々ある」という回答は、『青年』が56%、『親』は61%。『青年』の1割は「よくある」と回答。『青年』を年代別にみると、「ある」(よくある+時々ある)は第1次就業期(19~22歳)が73%と最も高く、大学在学期(19~22歳)で65%と最も低い。

- ・青年 = 「ある」 68.2%(よくある 11.8% + 時々ある 56.4%)
- ・親 = 「ある」 66.9%(よくある 5.9% + 時々ある 61.0%)

(3)自分は世の中から取り残されているという感じ

(本文:青年 P40、親 P119)

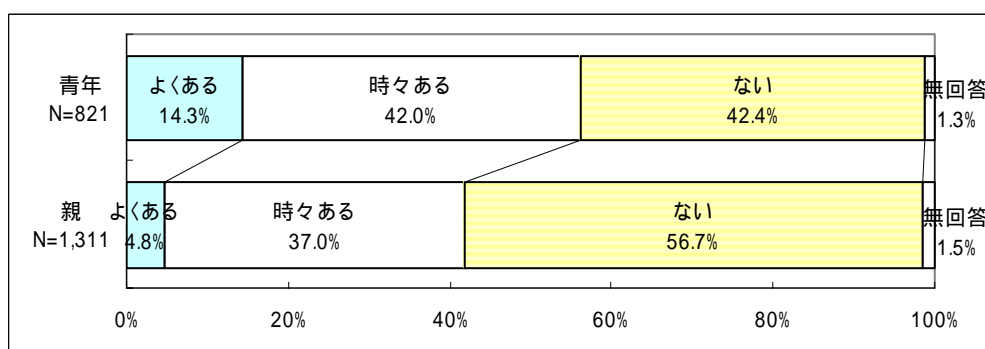


自分は世の中から取り残されていると感じることが「ある」は、『親』(31%)よりも『青年』(40%)の方が上回っている。『青年』を年代別にみると、「ある」(よくある+時々ある)は、第1次就業期(19~22歳)が48%と最も高く、高校在学期(15~18歳)で35%と最も低く、その差は13ポイント。

- ・青年 = 「ある」40.3%(よくある9.6%+時々ある30.7%)
- ・親 = 「ある」30.8%(よくある3.3%+時々ある27.5%)

(4)毎日が単調でつまらないという感じ

(本文:青年 P41、親 P120)

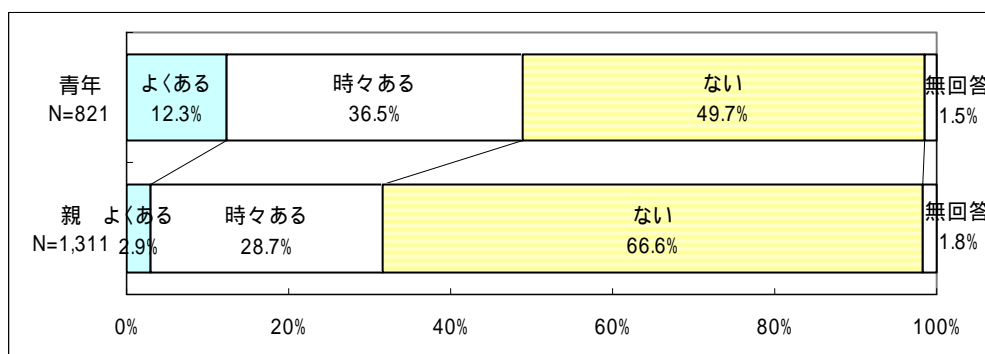


毎日が単調でつまらないと感じることが「ある」は、『親』(42%)よりも『青年』(56%)の方が上回っている。『青年』を年代別にみると「ある」(よくある+時々ある)は、第1次就業期(19~22歳)が65%と最も高く、大学在学期(19~22歳)で48%と最も低い。

- ・青年 = 「ある」56.3%(よくある14.3%+時々ある42.0%)
- ・親 = 「ある」41.8%(よくある4.8%+時々ある37.0%)

(5)自分は何をやってもダメだという感じ

(本文:青年 P42、親 P121)

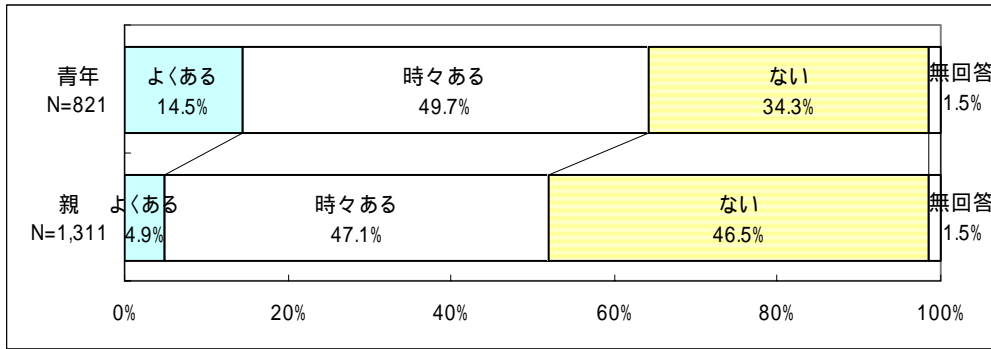


自分は何をやってもダメだと感じるものが「ある」は、『親』(32%)よりも『青年』(49%)の方が17ポイント高い。『青年』を年代別にみると、「ある」(よくある+時々ある)は、高校在学期(15~18歳)が56%と最も高く、大学在学期(19~22歳)で44%と最も低い。

- ・青年 = 「ある」48.8%(よくある12.3%+時々ある36.5%)
- ・親 = 「ある」31.6%(よくある2.9%+時々ある28.7%)

(6) イライラして誰かに当たりたくなる感じ

(本文: 青年 P43、親 P122)

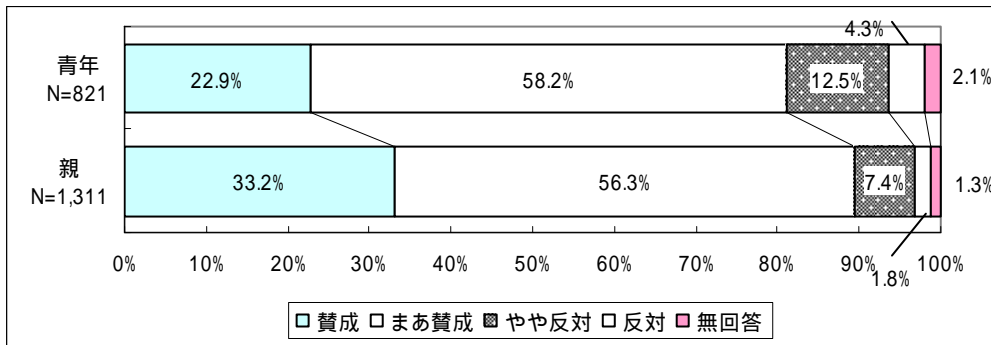


イライラして誰かに当たりたくなると感じるときが「ある」は、『親』52%よりも『青年』64%の方が12ポイント高い。『青年』を性・年代別にみると、「ある」(よくある+時々ある)は、すべての年代で女性が男性を上回っている。第1次就業期女性(19~22歳)で78%と最も高く、高校在学期男性(15~18歳)で51%と最も低い。

- ・青年 = 「ある」64.2%(よくある14.5%+時々ある49.7%)
- ・親 = 「ある」52.0%(よくある4.9%+時々ある47.1%)

5 社会に対する意識(対象 = 青年及び親)

(1) 社会の秩序を守るためには多少いやな思いをしても法に従わなければならない(本文: 青年 P44、親 P123)

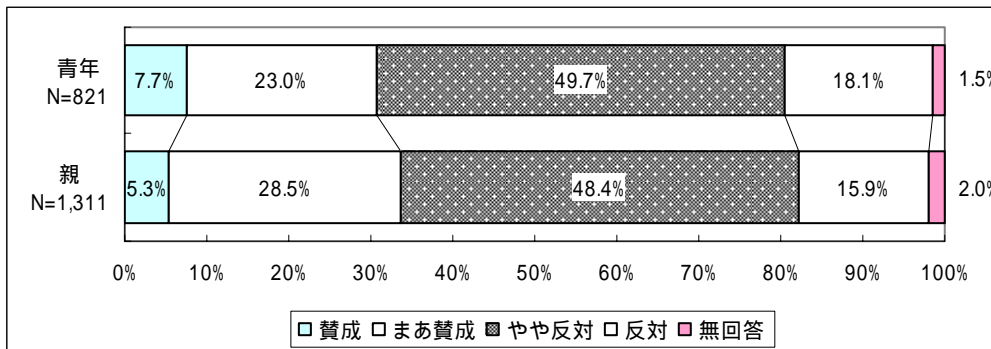


社会の秩序を守るためには多少いやな思いをしても法に従わなければならないという意見に「賛成」と、『青年』の約8割、『親』の約9割が回答。『青年』を年代別にみると、「賛成」(賛成+まあ賛成)は、大学在学期(19~22歳)が86%と最も高く、高校在学期(15~18歳)で77%と最も低い。

- ・青年 = 賛成 81.1%(賛成22.9%+まあ賛成58.2%)、親 = 賛成 89.5%(賛成33.2%+まあ賛成56.3%)

(2) 自分が損をしてまで他人を助ける必要はない

(本文: 青年 P45、親 P124)

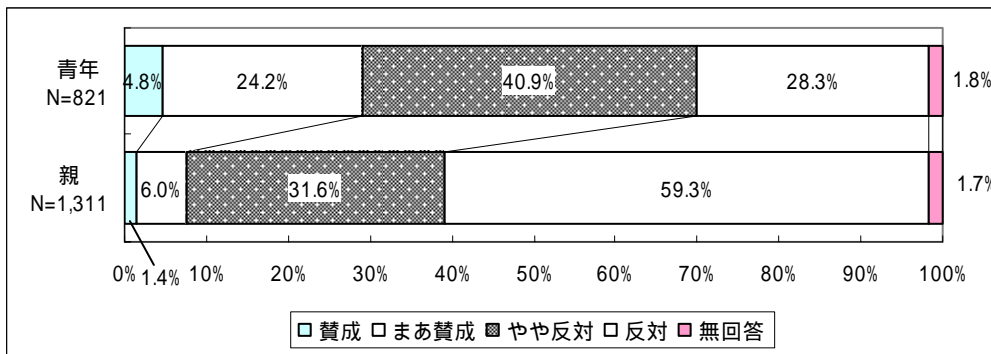


自分が損をしてまで他人を助ける必要はないという意見に「反対」は、『青年』68%、『親』64%。『青年』を年代別に見ると、「反対」(反対+やや反対)は、第2次就業期(23~24歳)が73%と最も高く、家族形成期(25~29歳)で65%と最も低い。

- ・青年 = 反対 67.8%(反対18.1%+やや反対49.7%)、親 = 反対 64.3%(反対15.9%+やや反対48.4%)

(3)人に見つからなければルールを破っても構わない

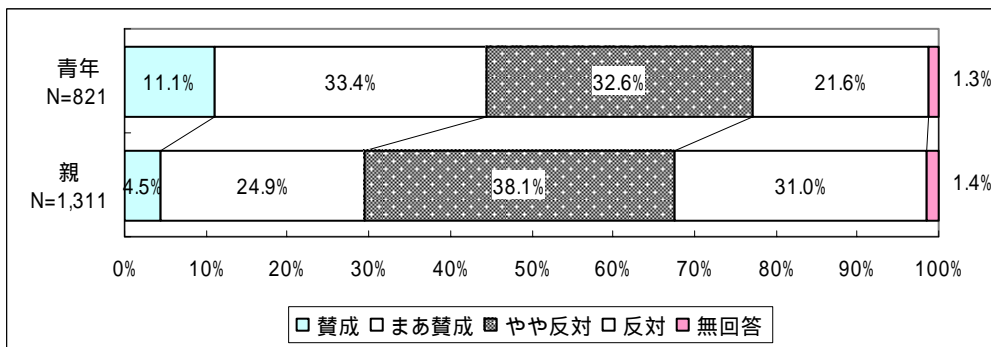
(本文:青年 P46、親 P125)



人に見つからなければルールを破っても構わないという意見に『青年』69%、『親』91%が「反対」と回答。その差は22ポイント。『青年』を年代別でみると、「反対」(反対+まあ反対)は、家族形成期(25~29歳)が76%と最も高く、高校在学期(15~18歳)で58%と最も低い。その差は18ポイント。
・青年 = 反対 69.2%(反対 28.3% + やや反対 40.9%)、親 = 反対 90.9%(反対 59.3% + やや反対 31.6%)

(4)人生は今が楽しければそれでいい

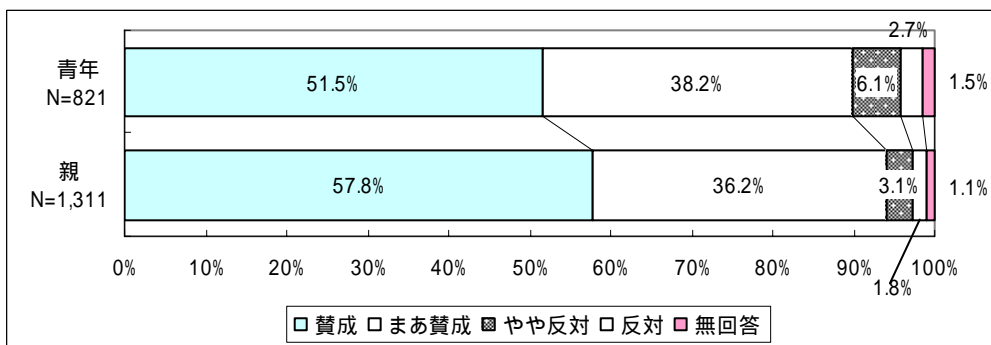
(本文:青年 P47、親 P126)



人生は今が楽しければそれでいいという意見に「賛成」は『青年』45%、『親』29%。
『青年』を年代別でみると、「賛成」(賛成+まあ賛成)は、第1次就業期(19~22歳)で53%と最も高く、第2次就業期(23~24歳)で39%と最も低い。
・青年 = 賛成 44.5%(賛成 11.1% + まあ賛成 33.4%)、親 = 賛成 29.4%(賛成 4.5% + まあ賛成 24.9%)

(5)何事も努力することが重要である

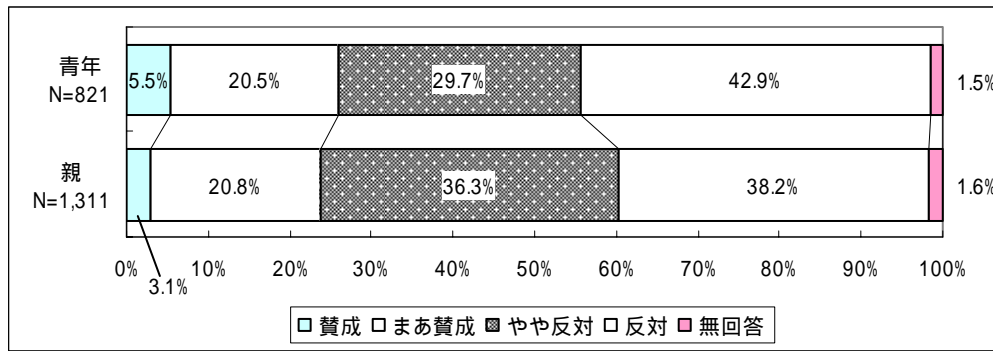
(本文:青年 P48、親 P127)



何事も努力することが重要であるという意見に、『青年』の90%、『親』の94%が「賛成」と回答。
・青年 = 賛成 89.7%(賛成 51.5% + まあ賛成 38.2%)、親 = 賛成 94.0%(賛成 57.8% + まあ賛成 36.2%)

(6) いい学校をでないといい暮らしができない

(本文: 青年 P49、親 P128)



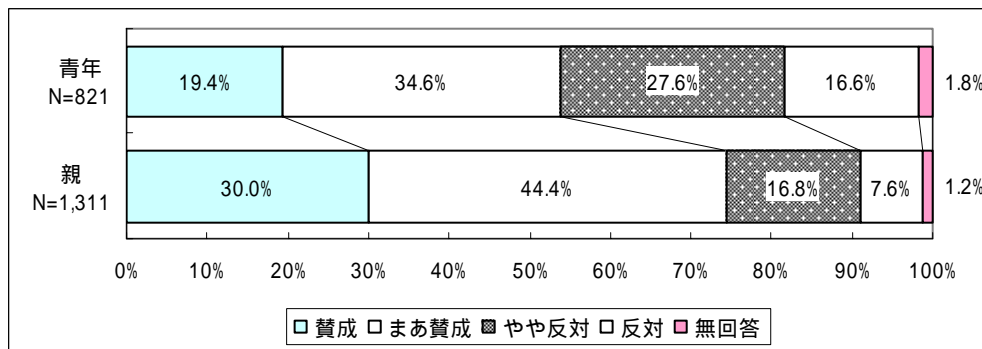
いい学校をでないといい暮らしができないという意見に「反対」は『青年』73%、『親』75%。

『青年』を年代別で見ると「反対」(反対+まあ反対)は、第1次就業期(19~22歳)が77%と最も高く、高校在学期(15~18歳)で69%と最も低い。

・青年 = 反対 72.6%(反対 42.9% + やや反対 29.7%)、親 = 反対 74.5%(反対 38.2% + やや反対 36.3%)

(7) 定職についてこそ一人前だ

(本文: 青年 P50、親 P129)



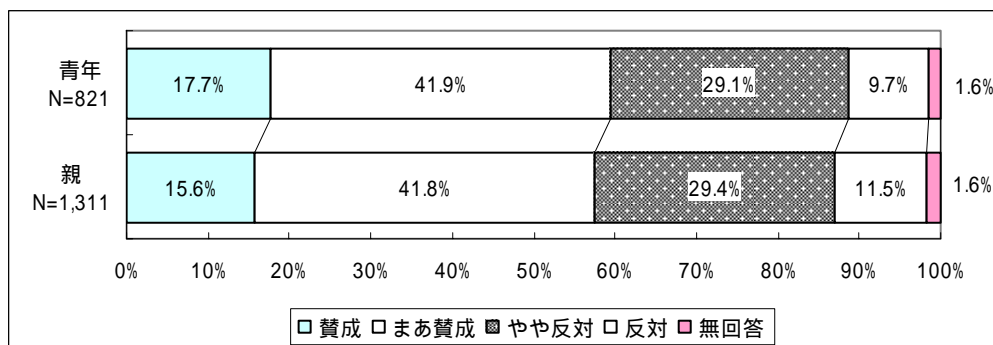
定職についてこそ一人前だという意見に、『青年』54%、『親』74%が「賛成」と回答。その差は20ポイント。

『青年』を年代別で見ると、「賛成」(賛成+まあ賛成)は、家族形成期(25~29歳)が56%と最も高く、第1次就業期(19~22歳)で48%と最も低い。

・青年 = 賛成 54.0%(賛成 19.4% + まあ賛成 34.6%)、親 = 賛成 74.4%(賛成 30.0% + まあ賛成 44.4%)

(8) お金は何よりも大切だ

(本文: 青年 P51、親 P130)



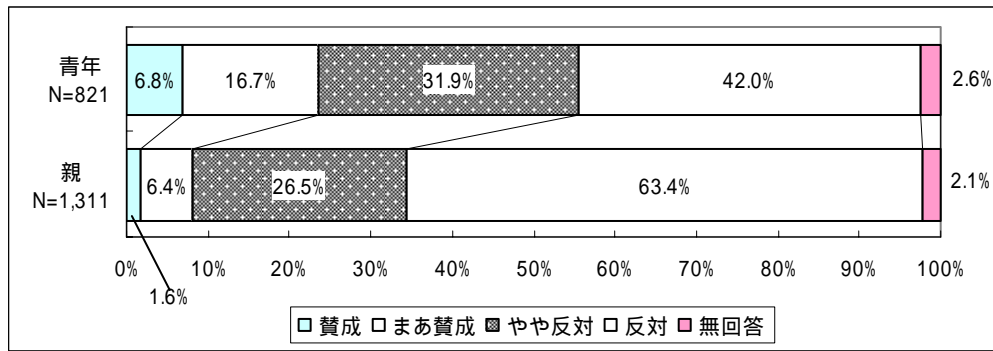
お金は何よりも大切だという意見に、『青年』60%、『親』57%が「賛成」と回答。

『青年』を年代別で見ると、「賛成」(賛成+まあ賛成)は、高校在学期(15~18歳)が62%と最も高く、第1次就業期(19~22歳)で52%と最も低い。

・青年 = 賛成 59.6%(賛成 17.7% + まあ賛成 41.9%)、親 = 賛成 57.4%(賛成 15.6% + まあ賛成 41.8%)

(9)愛情がないセックスをしても構わない

(本文:青年 P52、親 P131)



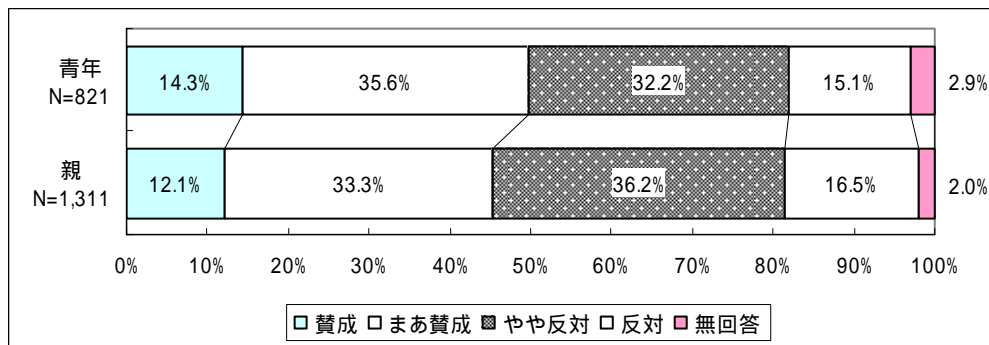
愛情がないセックスをしても構わないという意見に、『青年』74%、『親』90%が「反対」と回答

『青年』を年代別で見ると「反対」(反対+まあ反対)は、高校在学期(15~18歳)が84%と最も高く、第1次就業期(19~22歳)で67%と最も低い。その差は17ポイント。

・青年 = 反対 73.9%(反対 42.0% + やや反対 31.9%)、親 = 反対 89.9%(反対 63.4% + やや反対 26.5%)

(10)夫婦間の愛情がなくなっても、子どもがいたら離婚すべきではない

(本文:青年 P53、親 P132)



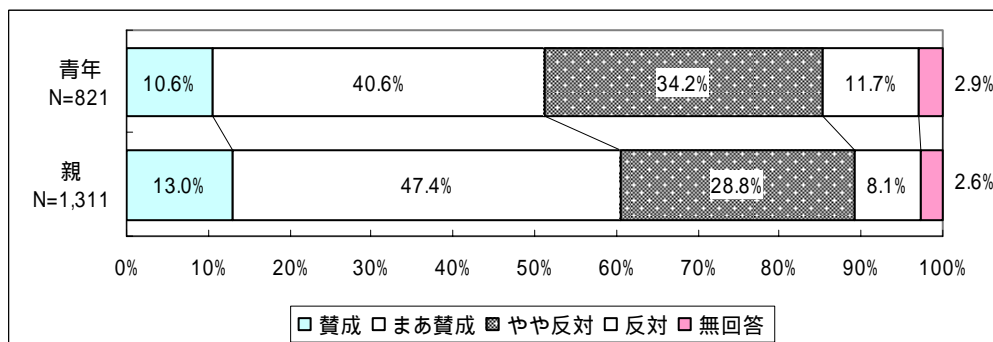
夫婦間の愛情がなくなっても、子どもがいたら離婚すべきではないという意見に、『青年』50%、

『親』45%が「賛成」と回答。『青年』を性・年代別で見ると、すべての年代で男性の「賛成」(賛成+まあ賛成)割合が高い。高校在学期男性(15~18歳)で65%と最も高く、家族形成期女性(25~29歳)で36%と最も低い。

・青年 = 賛成 49.9%(賛成 14.3% + まあ賛成 35.6%)、親 = 賛成 45.4%(賛成 12.1% + まあ賛成 33.3%)

(11)今の社会の制度は男性の方が何かと得なようになっている

(本文:青年 P54、親 P133)



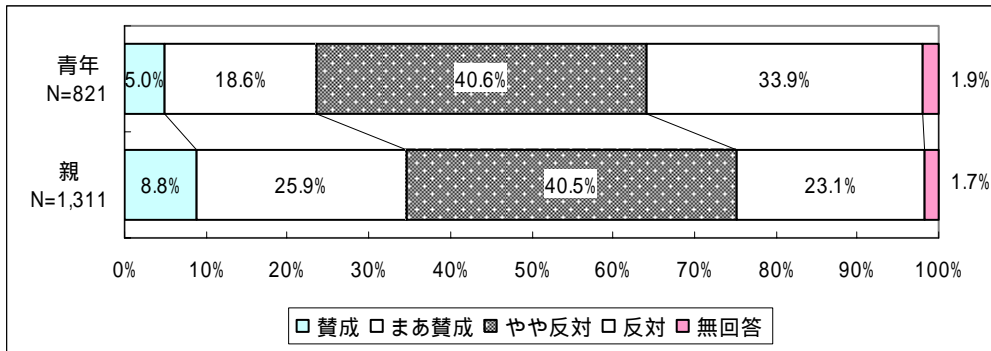
今の社会の制度は男性の方が何かと得なようになっているという意見に、『青年』51%、『親』60%が「賛成」と回答。

『青年』を性・年代別で見ると、すべての年代で女性の「賛成」(賛成+まあ賛成)割合が高く、第1次就業期女性(19~22歳)で63%と最も高くなっている。

・青年 = 賛成 51.2%(賛成 10.6% + まあ賛成 40.6%)、親 = 賛成 60.4%(賛成 13.0% + まあ賛成 47.4%)

(12)夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

(本文:青年 P55、親 P134)

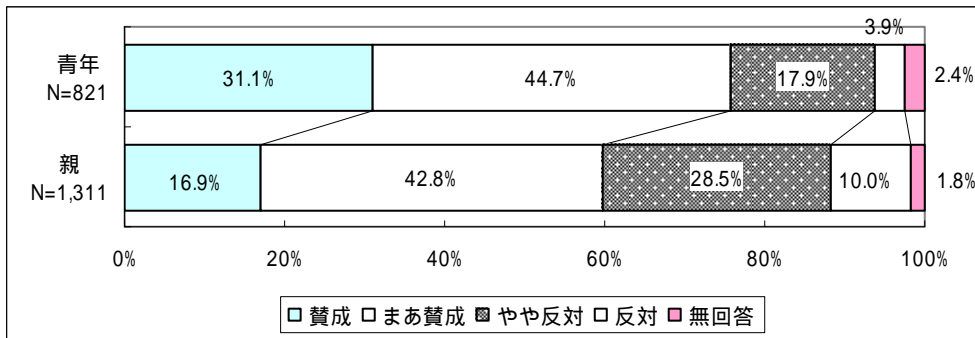


夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという意見に、『青年』24%、『親』の35%が「賛成」と回答。『親』の肯定意識が高い。

『青年』を性・年代別でみると、すべての年代で男性の「賛成」(賛成+まあ賛成)割合が高い。
 ・青年 = 賛成 23.6%(賛成 5.0%+まあ賛成 18.6%)、親 = 賛成 34.7%(賛成 8.8%+まあ賛成 25.9%)

(13)男性は育児休業を積極的にとった方がよい

(本文:青年 P56、親 P135)



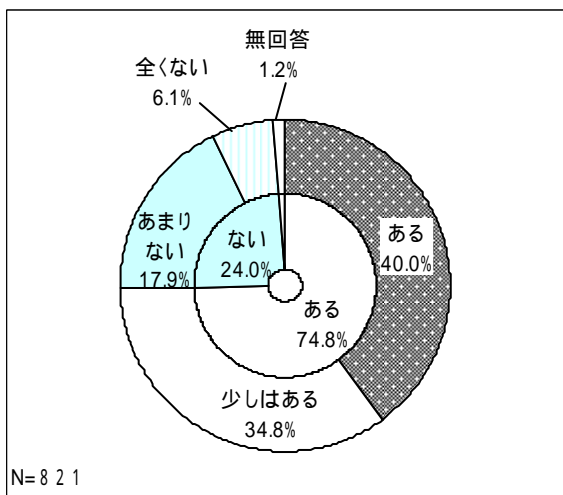
男性は育児休業を積極的にとった方がよいという意見に、『青年』76%、『親』60%が「賛成」と回答。その差は16ポイント。

『青年』を年代別でみると、「賛成」(賛成+まあ賛成)は大学在学期(19~22歳)が81%と最も高く、第2次就業期(23~24歳)で68%と最も低い。
 ・青年 = 賛成 75.8%(賛成 31.1%+まあ賛成 44.7%)、親 = 賛成 59.7%(賛成 16.9%+まあ賛成 42.8%)

6 日頃の生活態度や考え方について(対象 = 青年)

(1)自分が打ち込んでやれる何かがあるか

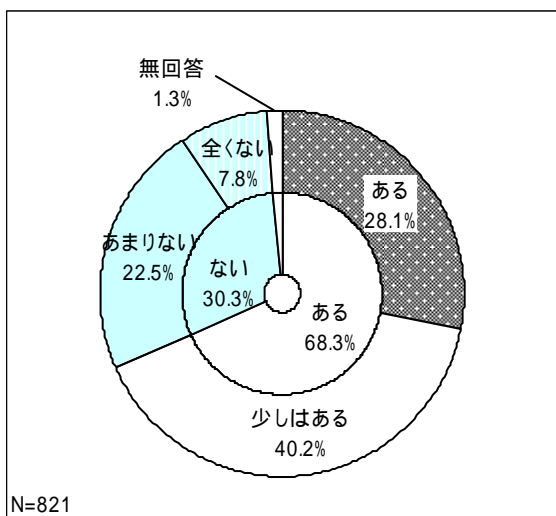
(本文:P57)



いま自分が打ち込んでやれる何かがある『青年』は75%
 自分が打ち込んでやれる何かがある『青年』は75%に対し、「ない」は24%である。
 年代別にみると、「ある」は大学在学期(19~22歳)が84%と最も高く、第1次就業期(19~22歳)で65%と最も低い。

(2)これからどう生きていくかの具体的考えや展望

(本文:P58)



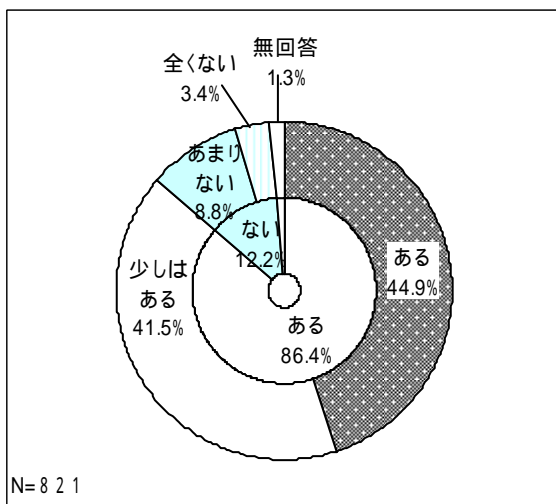
これからどう生きていくかの具体的考えや展望がある『青年』は約7割

これからどう生きていくかについて具体的考えや展望のある『青年』は68%、「ない」は30%である。

年代別にみると、「ある」は大学在学期(19~22歳)が75%と最も高く、第2次就業期(23~24歳)で62%と最も低い。

(3)自分に実力をつけるために何かをやる意志があるか

(本文:P59)



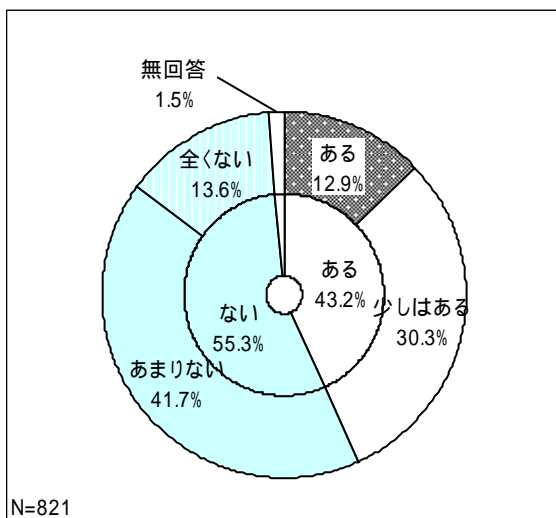
自分に実力をつけるために何かをやる意志がある『青年』は約9割

自分に実力をつけるために何かをやる意志のある『青年』は87%、「ない」は12%である。

年代別に見ると、「ある」は大学在学期(19~22歳)が94%と最も高く、第1次就業期(19~22歳)で83%と最も低い。

(4)社会や他人のためになることをしているか

(本文:P60)



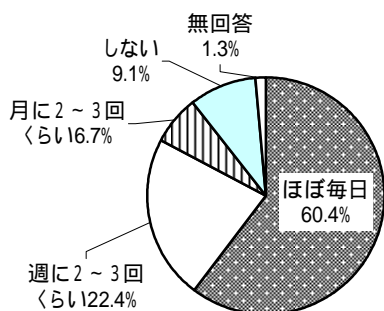
社会や他人のためになることをしている『青年』は43%、していないは55%

年代別にみると、「している」は大学在学期(19~22歳)が47%と最も高く、第1次就業期(19~22歳)で35%と最も低い。

7 日常的な行動(対象 = 青年)

(1) 携帯電話で友人とメールする

(本文:P61)



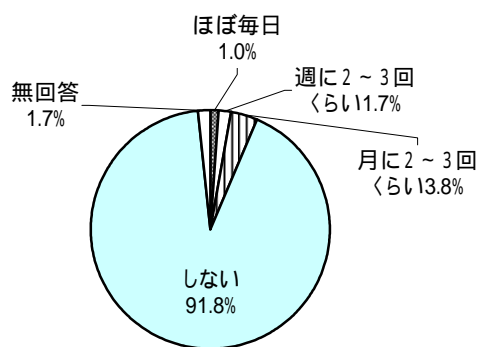
N=821

携帯電話で友人とメールする頻度を聞いたところ、「ほぼ毎日」が6割でトップ

- ・ ほぼ毎日 (60%)
- ・ 週に2~3回くらい (22%)
- ・ しない (9%)

(2) 「出会い系サイト」にインターネットでアクセスしたり、電話をかけたりする

(本文:P62)



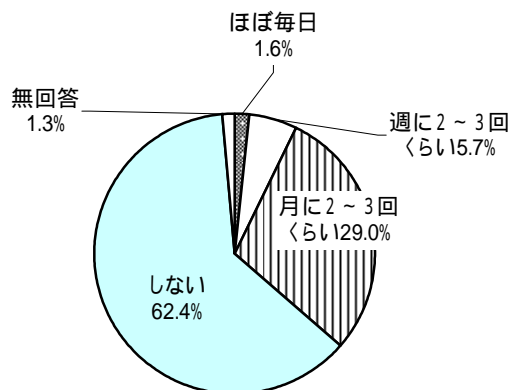
N=821

「出会い系サイト」にインターネットでアクセスしたり電話をかけたりする頻度を聞いたところ、「しない」が9割を超えている。

- ・ しない (92%)
- ・ 月に2~3回くらい (4%)
- ・ 週に2~3回くらい (2%)

(3) ゲームセンターやパチンコ店に行く

(本文:P63)



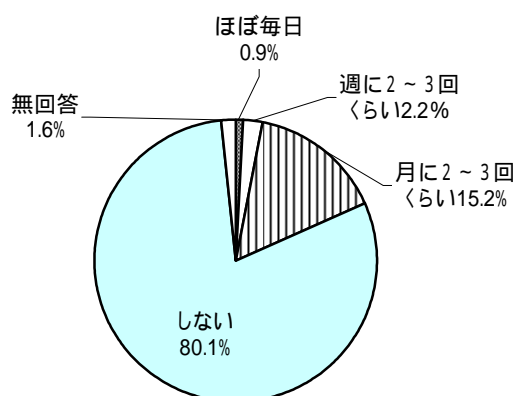
N=821

ゲームセンターやパチンコ店に行く頻度を聞いたところ、「しない(行かない)」が6割を超えている。

- ・ しない (62%)
- ・ 月に2~3回くらい (29%)
- ・ 週に2~3回くらい (6%)

(4)一晩中、繁華街などで遊ぶ

(本文:P64)



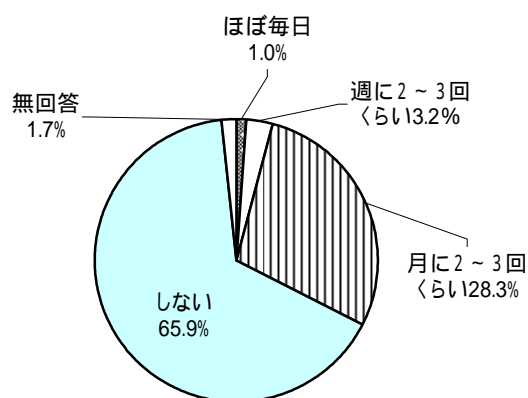
一晩中、繁華街などで遊ぶ頻度を聞いたところ、「しない(遊ばない)」が8割と最も多い。

- ・しない(80%)
- ・月に2~3回くらい(15%)
- ・週に2~3回くらい(2%)

N=821

(5)遊んでいて外泊する

(本文:P65)



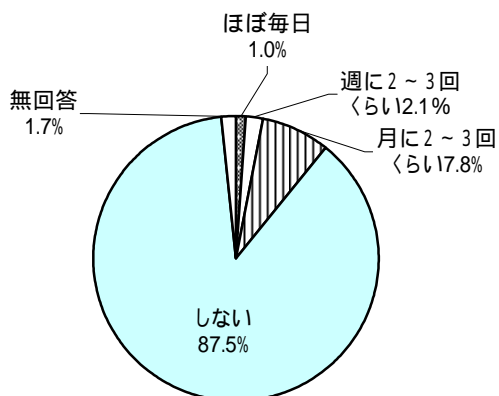
遊んでいて外泊する頻度を聞いたところ、「しない」が66%と最も多い。

- ・しない(66%)
- ・月に2~3回くらい(28%)
- ・週に2~3回くらい(3%)

N=821

(6)ボランティア活動をする

(本文:P66)



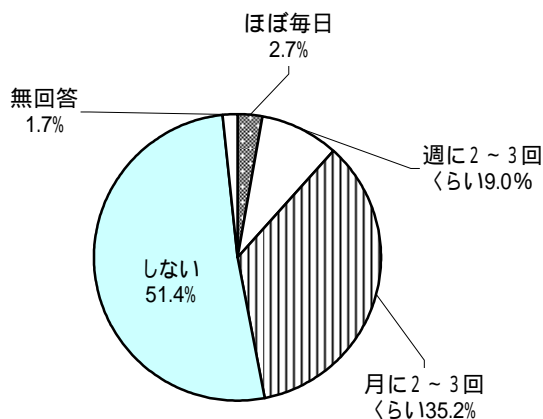
ボランティア活動について聞いたところ、「しない(活動はしていない)」が88%と最も多い。

- ・しない(88%)
- ・月に2~3回くらい(8%)
- ・週に2~3回くらい(2%)

N=821

(7)一日中家の中にもって何もしない

(本文:P67)



一日中家の中にもって何もしないことがあるかをきいたところ、「しない」(何もしないことはない)が5割、「月に2~3回くらい(ある)」が35%。

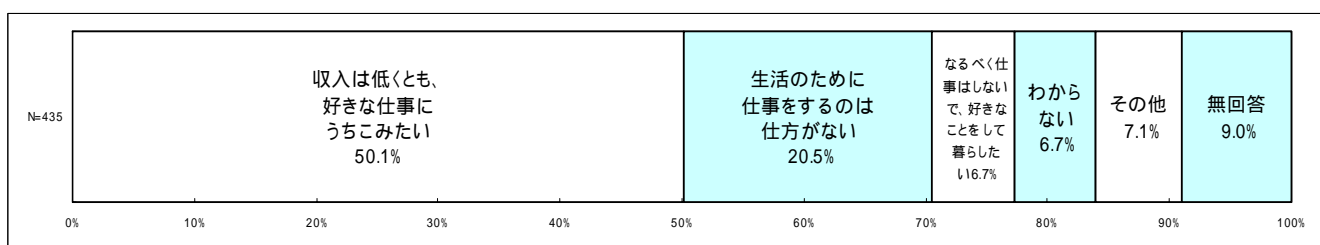
- ・しない(51%)
- ・月に2~3回くらい(35%)
- ・週に2~3回くらい(9%)
- ・ほぼ毎日(3%)

N=821

8 将来の仕事像(対象 = 青年)

(1)将来働くことをどのように考えているか(対象 = 就労者以外の青年)

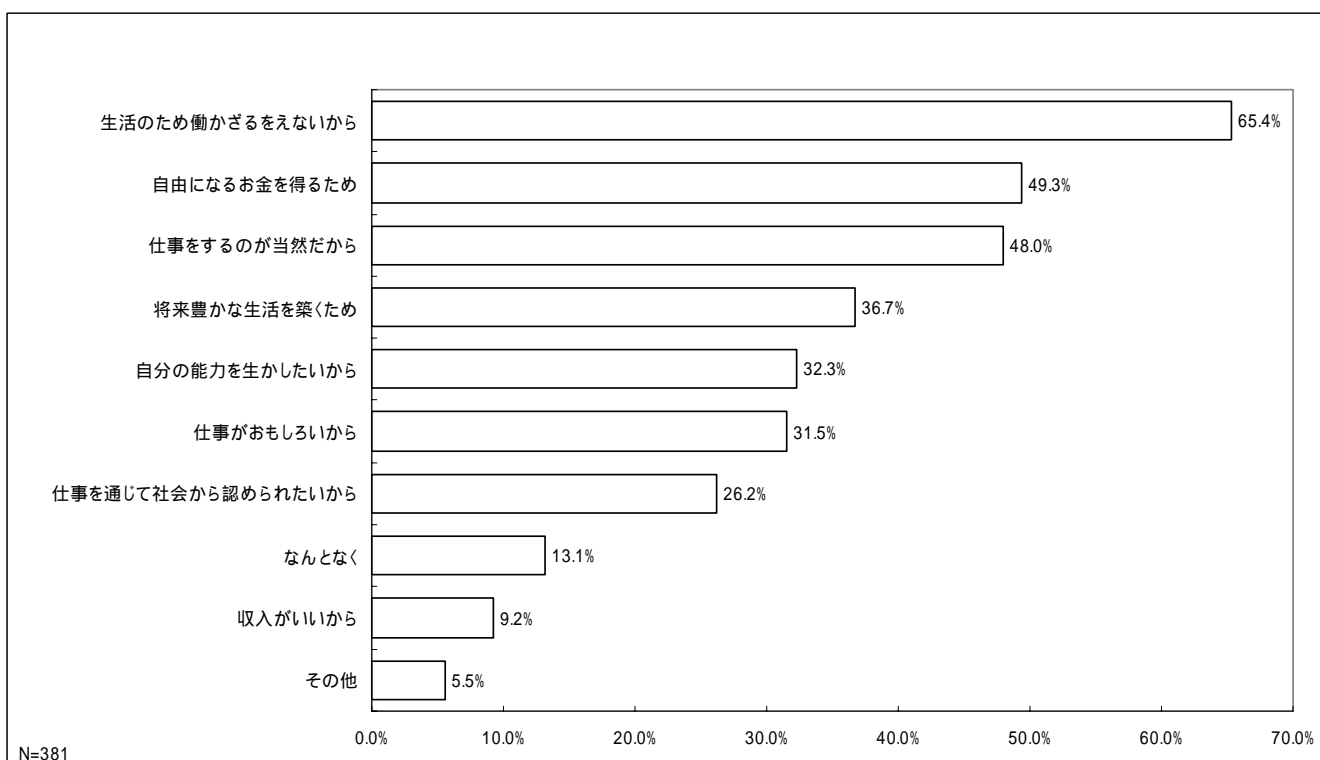
(本文:P68)



将来働くことについて聞いたところ、「収入は低くとも、好きな仕事にうちこみたい」が5割でトップ次いで「生活のために仕事をするのは仕方がない」(21%)、「なるべく仕事はしないで、好きなことをして暮らしたい」(7%)と続いている。

(2)今働いている理由(対象 = 就労者の青年)

(本文:P69)

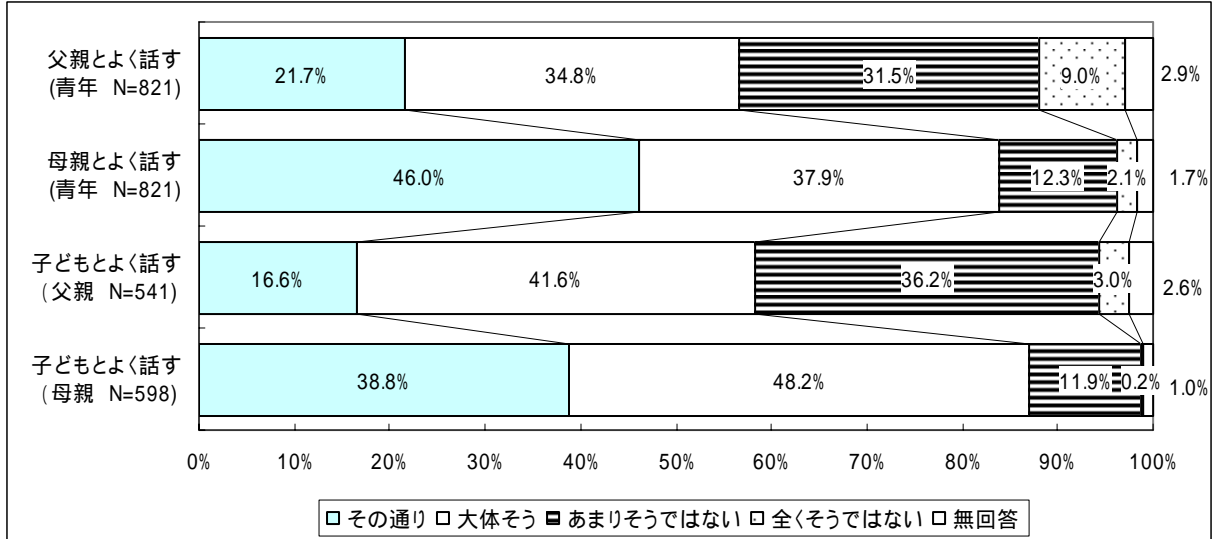


今働いている理由を聞いたところ、「生活のために働かざるをえないから」(65%)がトップ
 次いで「自由になるお金を得るため」(49%)、「仕事をするのが当然だから」(48%)、「将来豊かな生活を築くため」(37%)と続いている。

9 親と子の関係(対象 = 青年及び親)

(本文: 青年 P70、親 P136)

(1) 親と子の会話

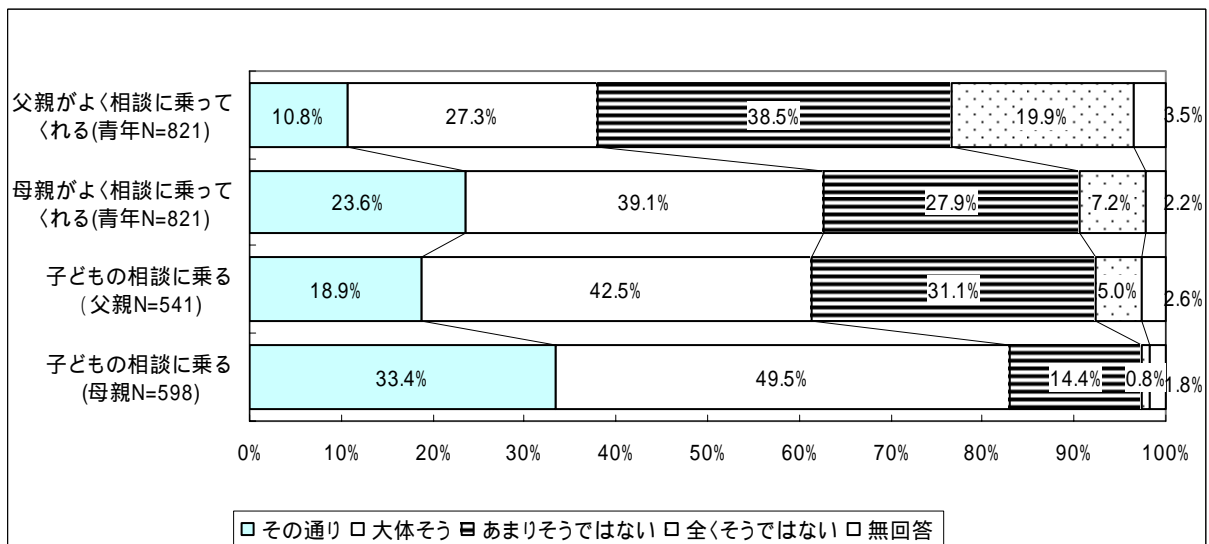


母親とはよく話すが(84%)、父親(57%)との会話は不足している。

- ・『青年』 = 「父親とよく話す」56.5%(その通り 21.7% + 大体そう 34.8%)
 「母親とよく話す」83.9%(その通り 46.0% + 大体そう 37.9%)
- ・『親』 = 「子どもとよく話すと答えた父親」58.2%(その通り 16.6% + 大体そう 41.6%)
 = 「子どもとよく話すと答えた母親」87.0%(その通り 38.8% + 大体そう 48.2%)

(2) 相談

(本文: 青年 P72、親 P137)

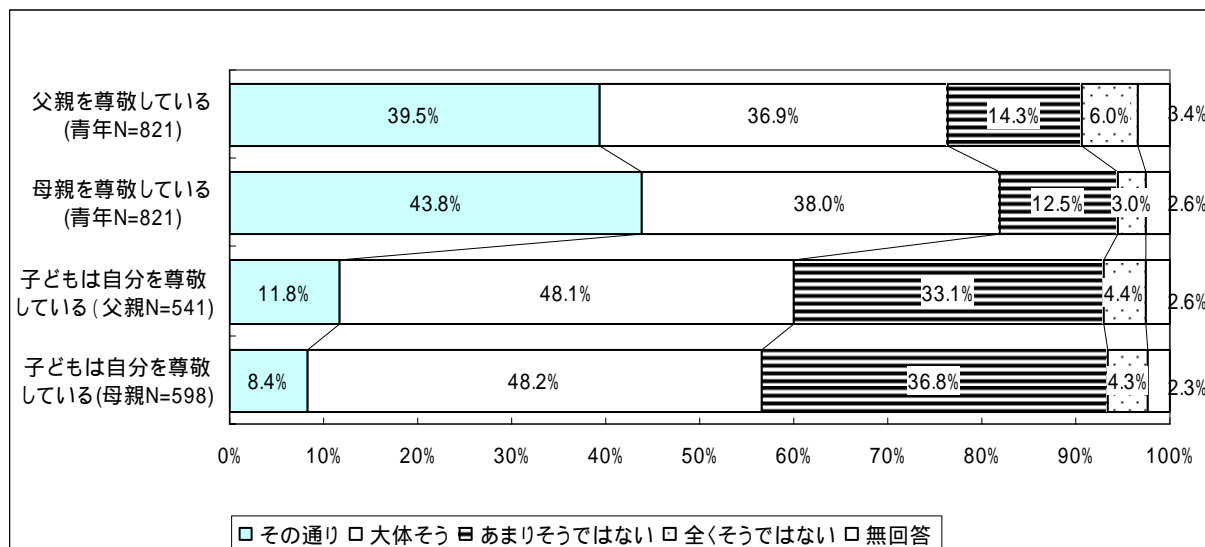


父親の6割は相談に乗っているつもりでも、青年の6割はそうは思っていない。

- ・『青年』 = 「父親がよく相談に乗ってくれる」38.1%(その通り 10.8% + 大体そう 27.3%)
 「母親がよく相談に乗ってくれる」62.7%(その通り 23.6% + 大体そう 39.1%)
- ・『親』 = 「子どもの相談によく乗ると答えた父親」61.4%(その通り 18.9% + 大体そう 42.5%)
 = 「子どもの相談によく乗ると答えた母親」82.9%(その通り 33.4% + 大体そう 49.5%)

(3) 尊敬

(本文: 青年 P74、親 P138)

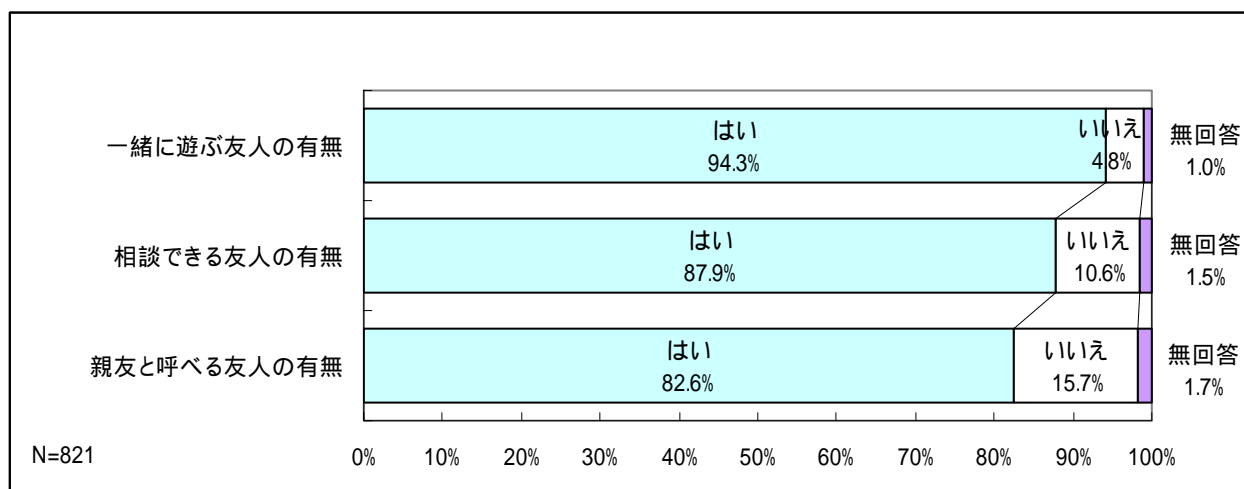


親を尊敬していると青年の約8割が回答

- ・『青年』 = 「父親を尊敬している」76.4% (その通り 39.5% + 大体そう 36.9%)
 「母親を尊敬している」81.8% (その通り 43.8% + 大体そう 38.0%)
- ・『親』 = 「子どもは自分を尊敬している」59.9% (その通り 11.8% + 大体そう 48.1%)
 = 「子どもの相談によく乗ると答えた母親」56.6% (その通り 8.4% + 大体そう 48.2%)

1.0 友人関係(対象: 青年)

(本文:P76)



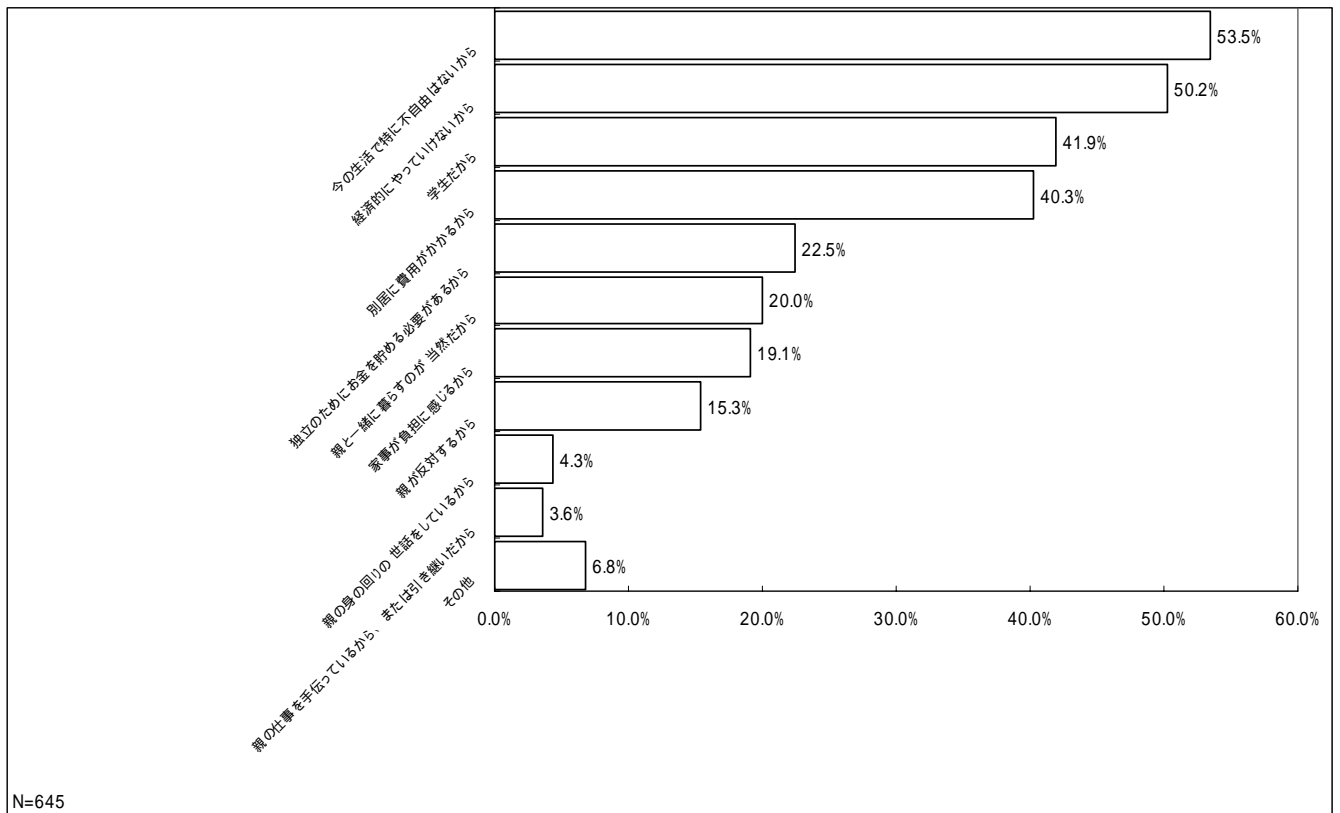
『青年』に友人関係について聞いたところ

- ・ 一緒に遊ぶ友人 有 = 94%
- ・ 困ったときに相談する友人 有 = 88%
- ・ 親友と呼べる友人 有 = 83%

1.1 親と同居している理由(対象：親と同居している青年)

(1)同居理由

(本文:P80)



親と同居している理由は「今の生活で特に不自由はないから」54%が最も多い。

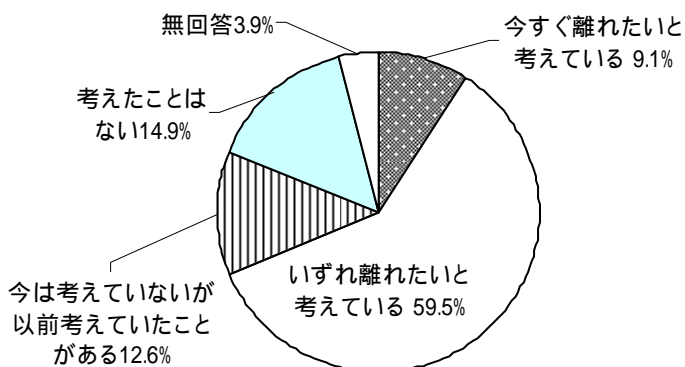
次いで「経済的にやっていけないから」(50%)、「学生だから」(42%)、「別居に費用がかかるから」(40%)と続いている。

年代別でみると、有職者の同居理由は「経済的理由」の割合が高い。

「今の生活で特に不自由はないから」(第2次就業期 66%、家族形成期 63%)、「経済的にやっていけないから」(第1次就業期 65%、第2次就業期 52%)、「別居に費用がかかるから」(家族形成期 57%、第2次就業期 47%)、「学生だから」(高校在学期 80%、大学在学期 76%)

(2)独立意識

(本文:P82)



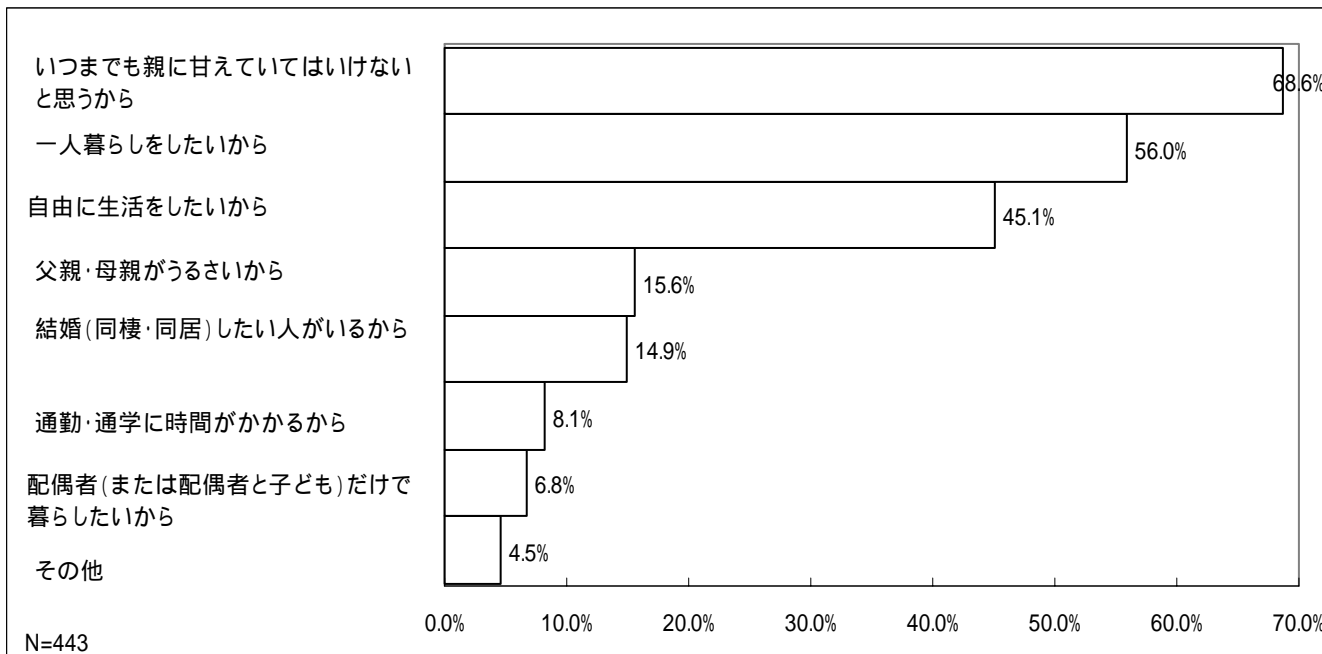
親元からの独立意識は、約7割

- ・独立意識がある 68.6% = 今すぐ離れたいと考えている 9.1% + いずれ離れたいと考えている 59.5%
- ・独立意識はない 27.5% = 今は考えていない 12.6% + 考えたことはない 14.9%
- ・年代別でみると、第1次就業期(75%)、大学在学期(73%)で独立意識が高い。家族形成期では、独立意識は最も低い(63%)が、今は独立を考えていないが以前は考えていたことがあるが2割を占めている。

- 高校在学期(15~18歳)
- 大学在学期(19~22歳)
- 第1次就業期(19~22歳)
- 第2次就業期(23~24歳)
- 家族形成期(25~29歳)

(3)親元から離れた理由(対象 = 独立意識のある人のみ)

(本文:P84)

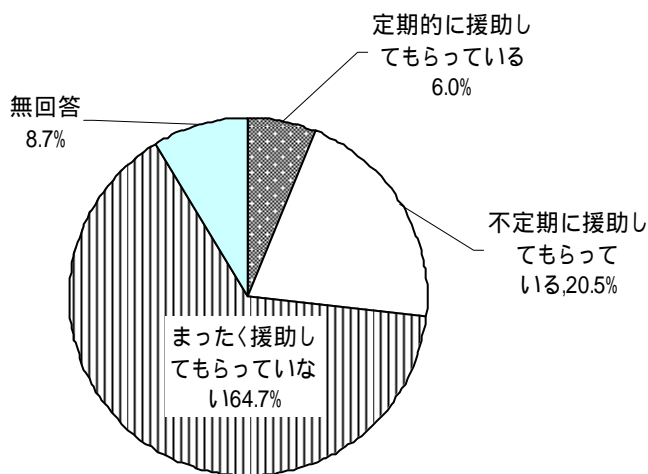


親元から離れた理由は、「いつまでも親に甘えていてはいけないと思うから」69%が最も多い。次いで、「一人暮らしをしたいから」(56%)、「自由に生活をしたいから」(45%)と続いている。年代別でみると、「いつまでも親に甘えていてはいけないから」は、有職者(第1次就業期76%、第2次就業期74%)で高い。「一人暮らしをしたいから」(67%)、「自由に生活をしたいから」(54%)は高校在学期で高くなっている。

1.2 親からの経済的援助(対象:学生以外の青年)

(本文:P86)

(1)親からの援助を受けているか

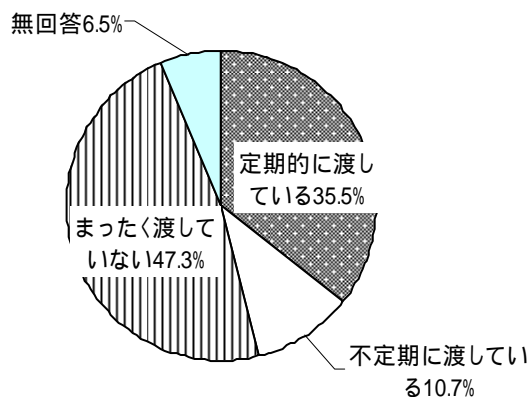


N=448

親から「まったく援助してもらっていない」と回答したのは65%
 経済的に「援助してもらっている」26.5% = 「定期的に援助」6% + 「不定期に援助」20.5%
 その額は、月平均で「5万円未満」(56%)、「5万円以上10万円未満」(19%)である。

(2) 親への仕送り等

(本文:P88)

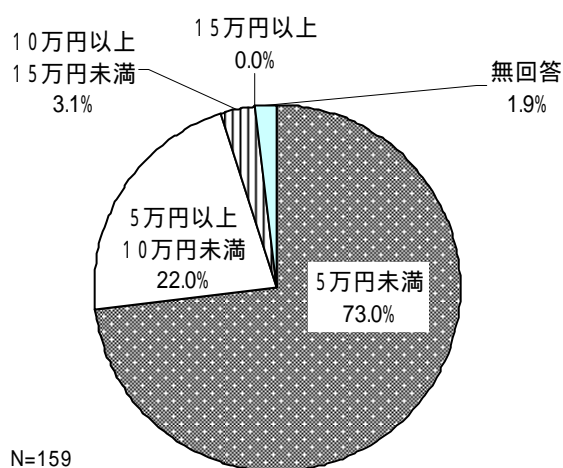


N=448

親に仕送りをしているは 46%、まったく渡していないは 47%とほぼ同率
仕送りをしている 46.2% = 定期的に渡している 35.5% + 不定期に渡している 10.7%
まったく渡していない = 47.3%

(3) 仕送りの額(月平均)

(本文:P89)



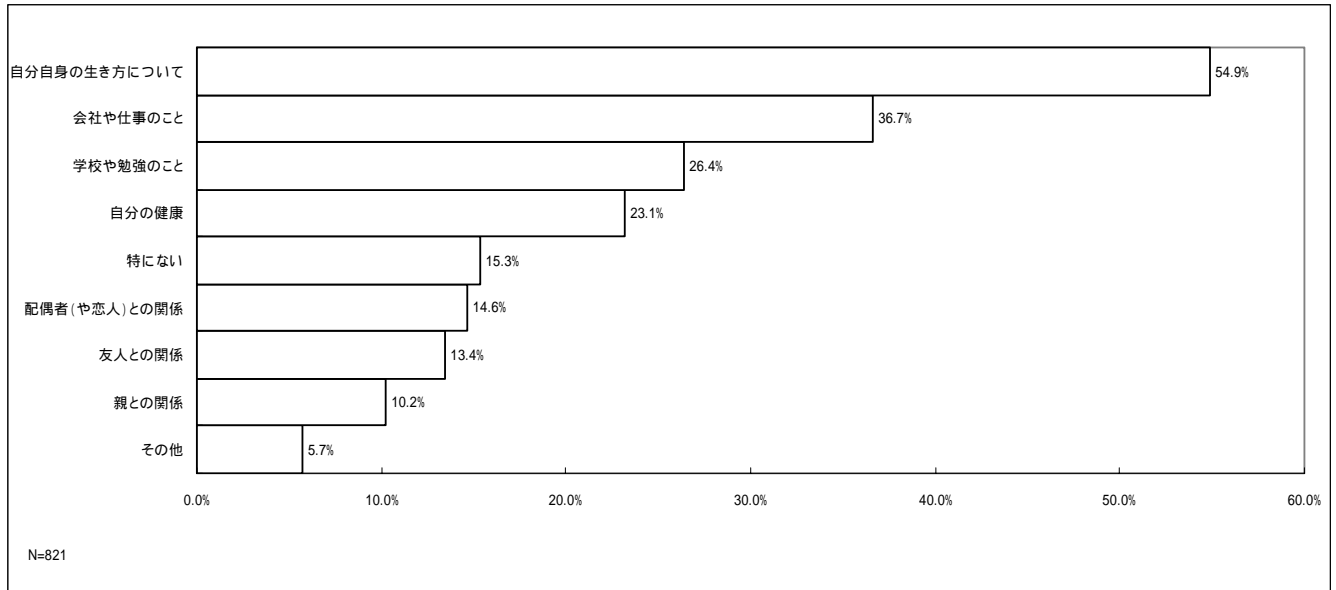
N=159

月平均の仕送り額は、5万円未満が73%と最も多い。
次いで、5万円以上10万円未満(22%)、「10万円以上15万円未満」(3%)と続いている。

1.3 悩み・不安

(1)現在の悩み(対象 = 青年)

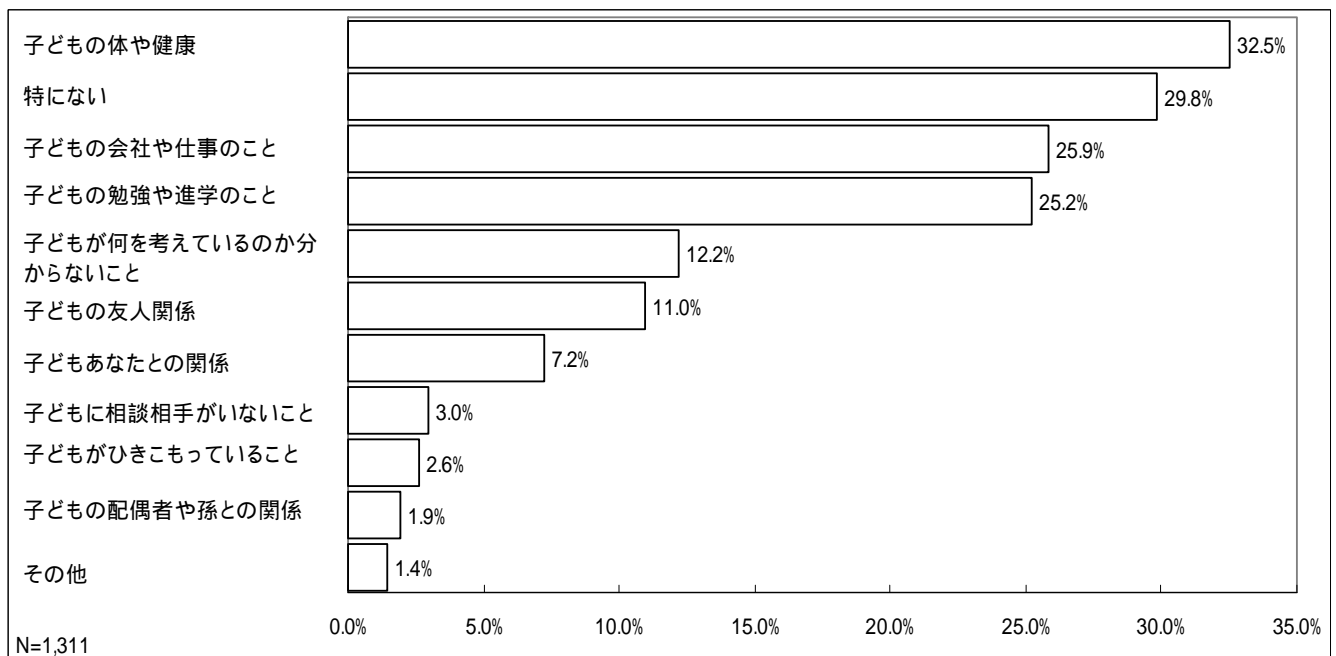
(本文:P90)



『青年』の現在の悩みのトップは、「自分自身の生き方について」が 55% 次いで「会社や仕事のこと」(37%)、「学校や勉強のこと」(26%)、「自分の健康」(23%)と続いている。悩みがない『青年』(「特にない」)は 15%である。

(2)子どもに対する現在の悩み(対象 = 親)

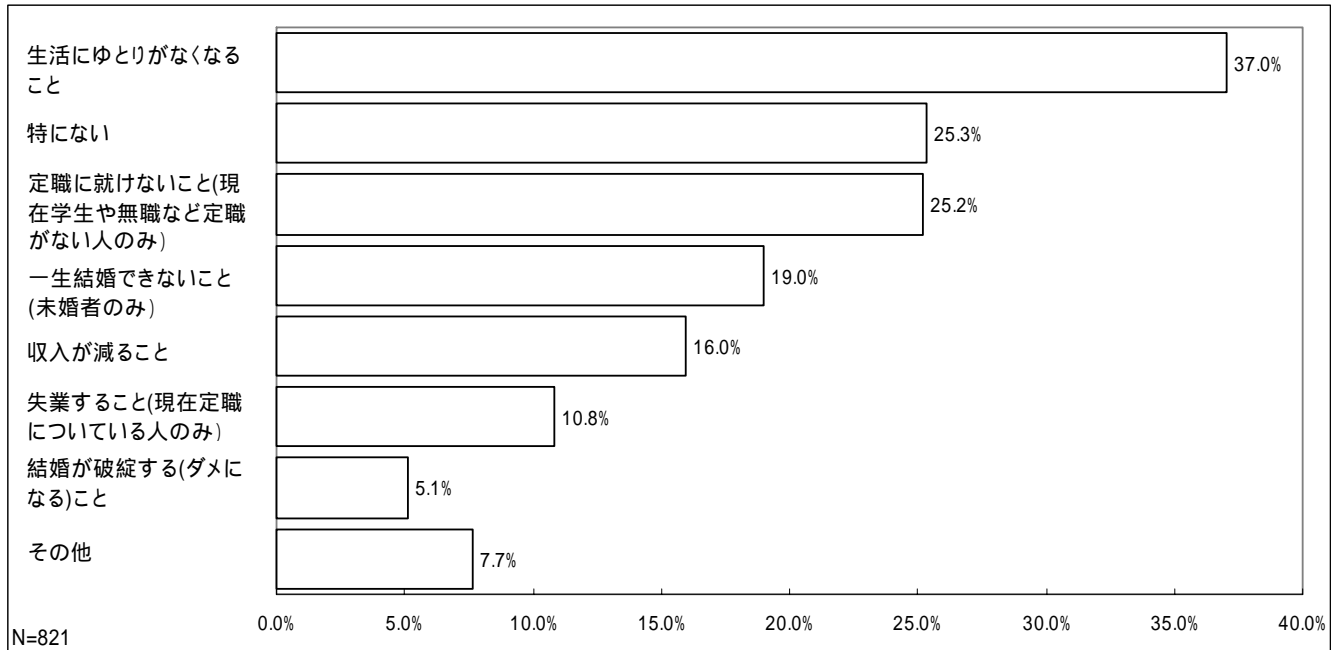
(本文:P140)



子どもに対する『親』の現在の悩みのトップは、「子どもの体や健康のこと」が 33% 次いで、「子どもの会社や仕事のこと」(26%)、「子どもの勉強や進学のこと」(25%)と続いている。悩みがない(「特にない」)は 30%である。

(3) 将来の不安(対象 = 青年)

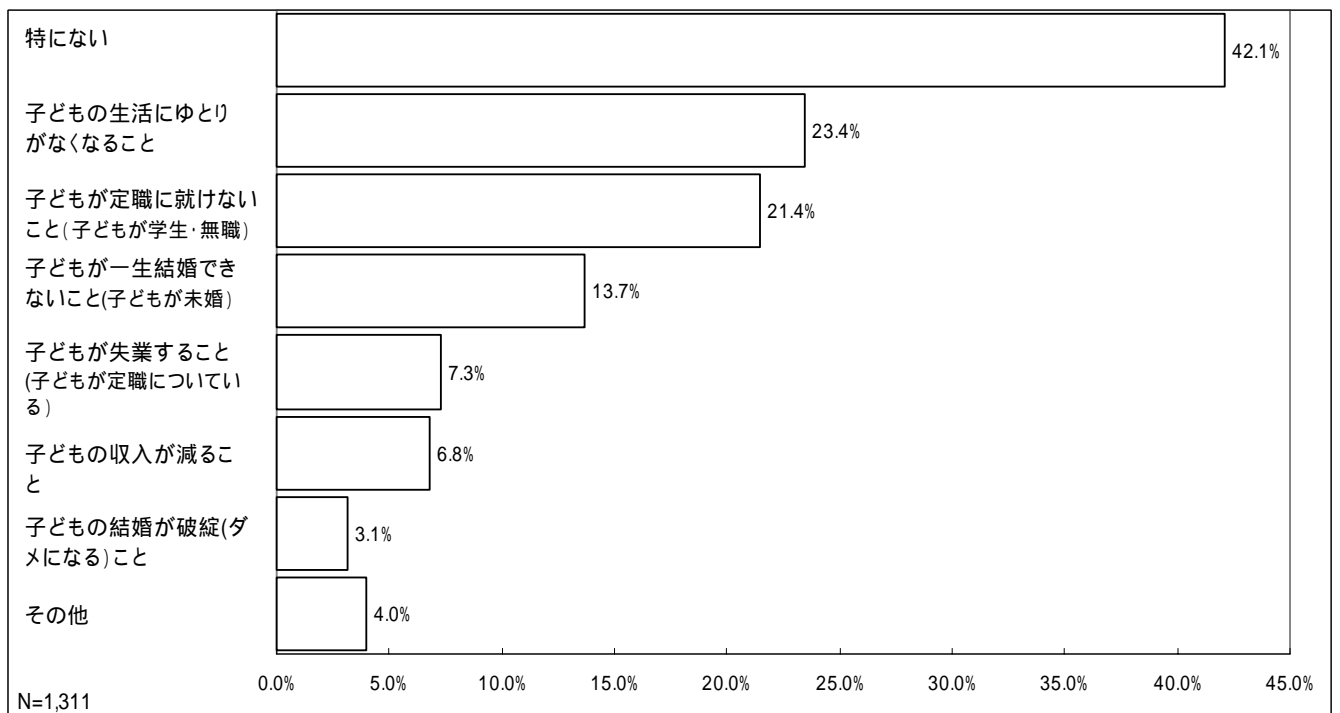
(本文:P92)



『青年』に将来の不安を聞いたところ、「生活にゆとりがなくなること」(37%)が最も多い。次いで「定職に就けないこと」(25%)、「一生結婚できないこと」(19%)と続いている。また、不安はない(「特にない」)は、25%である。

(4) 将来のお子さんに対する不安(対象 = 親)

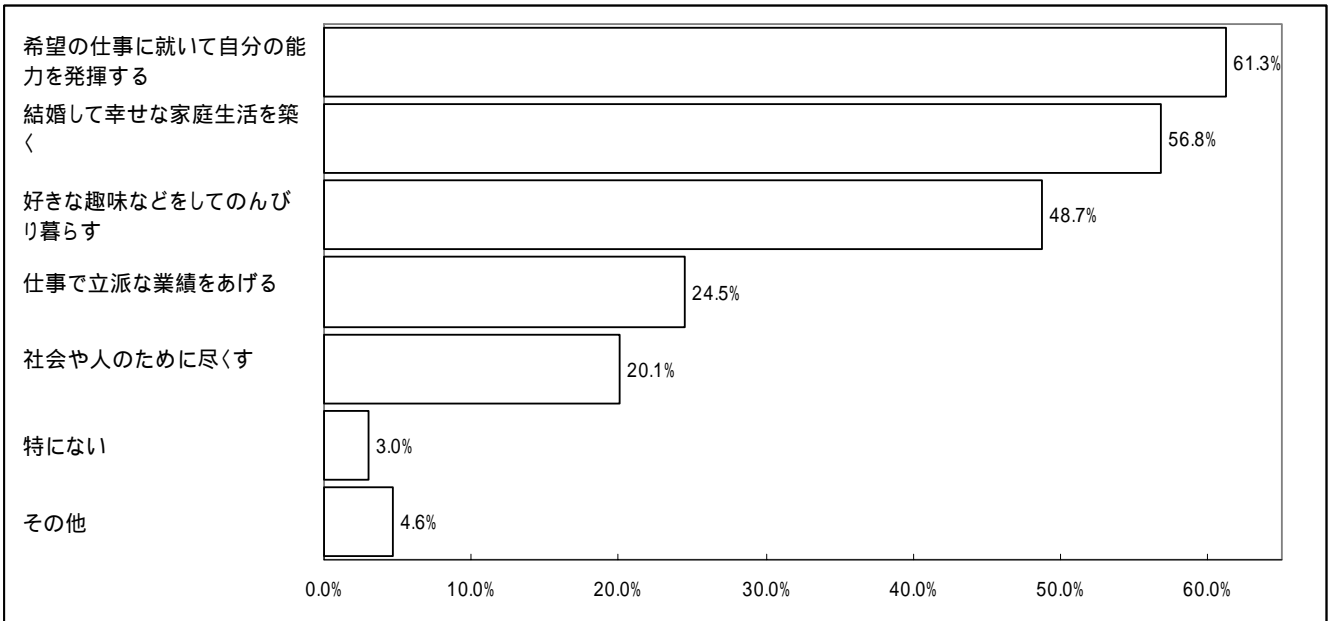
(本文:P142)



子どもの将来に対する不安について『親』に聞いたところ、不安はない(「特にない」)が42%と最も多い。不安については、「子どもの生活にゆとりがなくなること」(23%)、「子どもが定職に就けないこと」(21%)と続いている。

(5) 将来の夢(対象 = 青年)

(本文:P94)

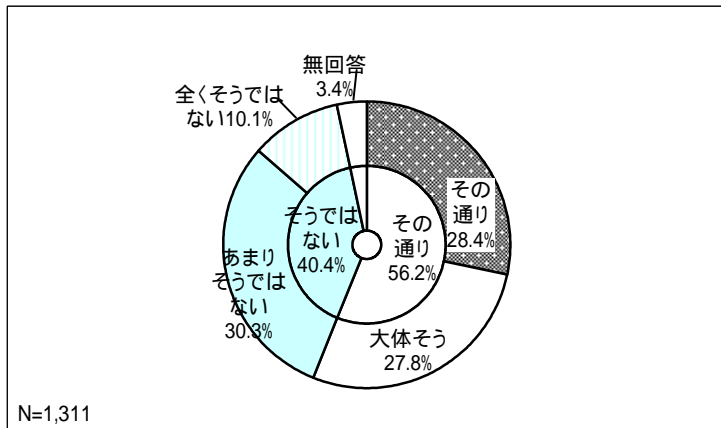


『青年』に将来の夢を聞いたところ、「希望の仕事に就いて自分の能力を発揮する」が61%と最も多い。次いで、「結婚して幸せな家庭生活を築く」(57%)、「好きな趣味などをしてのんびり暮らす」(49%)と続いている。

1.4 親自身の客観的評価(対象 = 親)

(1) とても大切にしている趣味がある

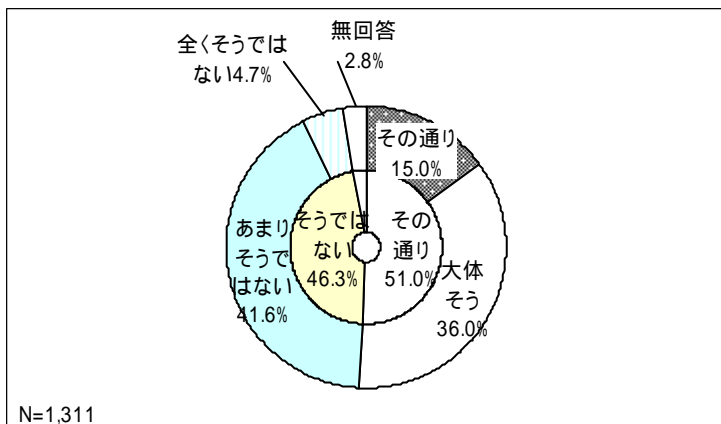
(本文:P144)



自分自身がとても大切にしている趣味があるかを聞いたところ、「ある」と答えた『親』は56%、「ない」は40%である。

(2) 友だちが多い

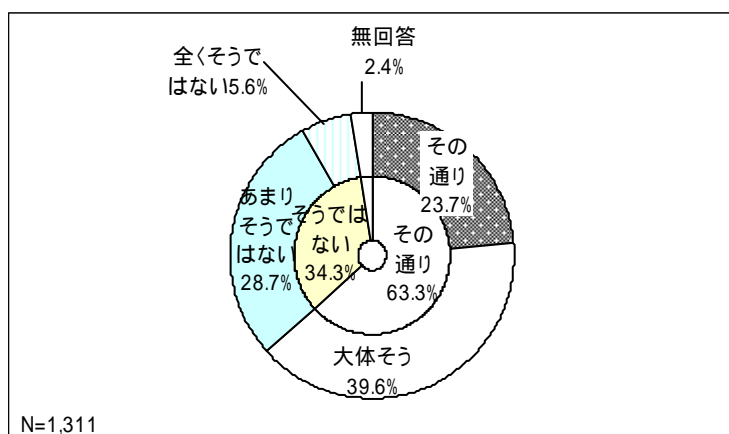
(本文:P145)



自分自身の友だちが多いかを聞いたところ、「多い」と答えた『親』は51%、「そうではない(多くはない)」は46%である。

(3)わずかな時間でも毎日、必ず自分の時間をとる

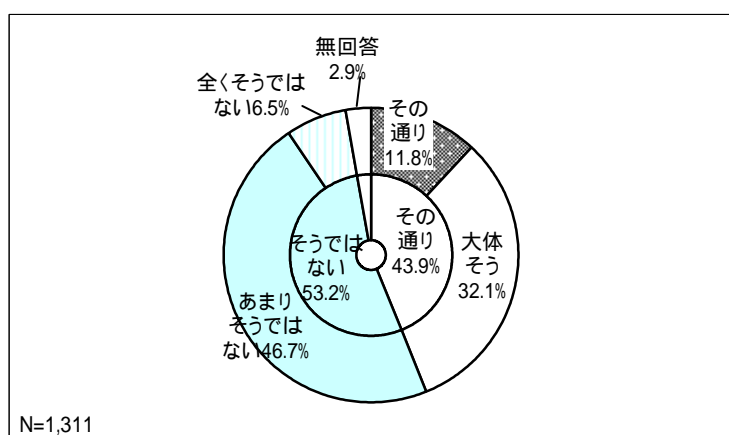
(本文:P146)



わずかな時間でも毎日、必ず自分の時間をとると答えた『親』は6割を超えている。「そうではない」は34%である。

(4)家にいるより外に出かける方が好き

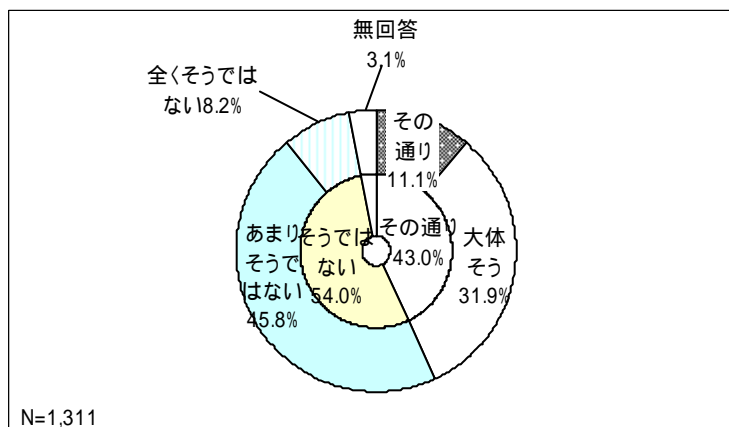
(本文:P147)



家にいるより外に出かける方が好きと答えた『親』は44%、「そうではない(外に出かけるのが好きではない)」は53%と過半数を超えた。

(5)家族で一緒によく外出する

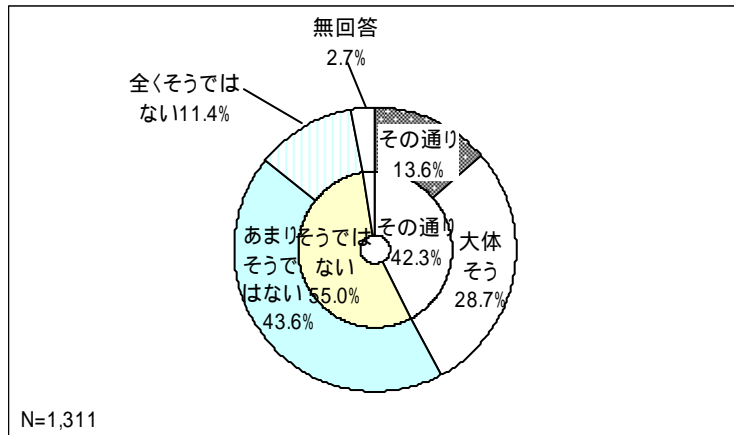
(本文:P148)



家族で一緒によく外出すると答えた『親』は43%、「そうではない(外出しない)」は54%と過半数を超えている。

(6)自分の趣味や興味あることに時間を多く割いている

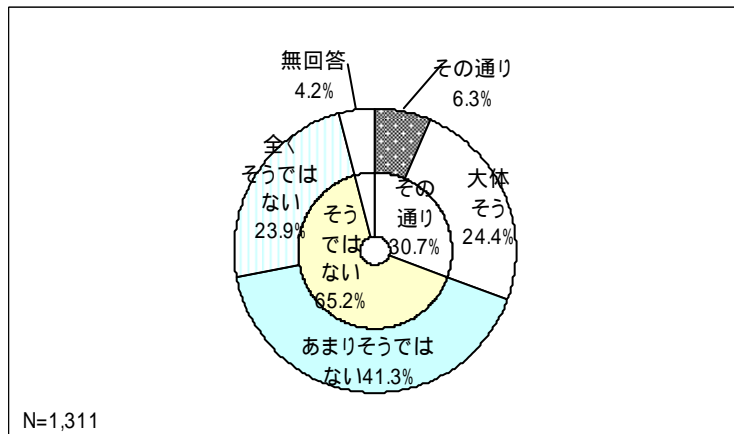
(本文:P149)



自分の趣味や興味のあることに時間を多く割いていると答えた『親』は42%、「そうではない」は55%と過半数を超えている。

(7)家庭より仕事を大切にしてきた(している)

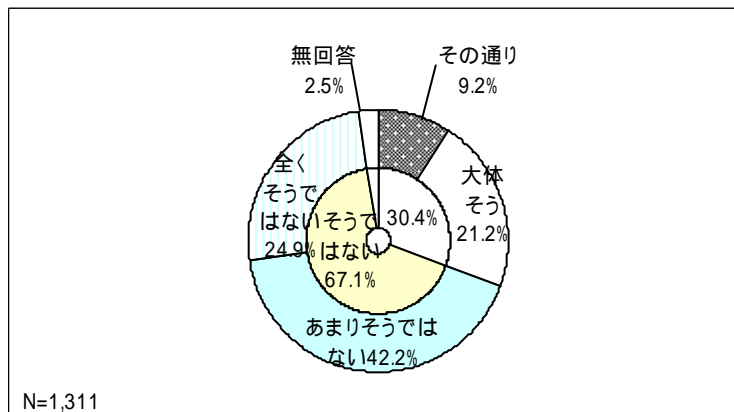
(本文:P150)



家庭より仕事を大切にしてきた(している)と答えた『親』は31%、「そうではない」は65%と2倍となっている。

(8)自分のできなかったことを子どもに実現してほしい

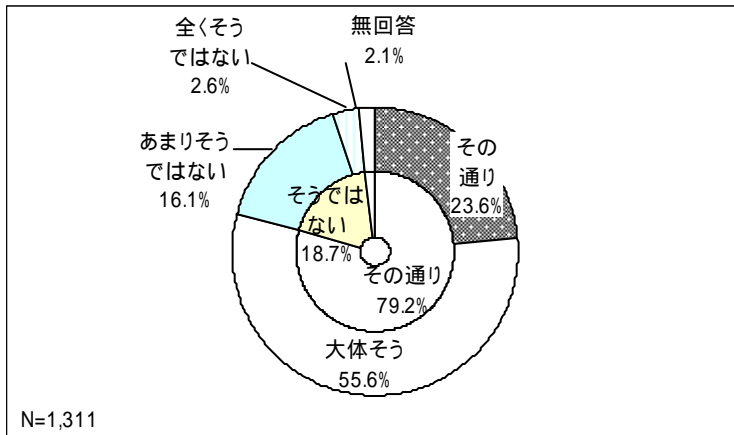
(本文:P151)



自分のできなかったことを子どもに実現してほしいと答えた『親』は30%、「そうではない(実現してほしいとは思わない)」は67%である。

(9)今の家庭生活に満足している

(本文:P152)

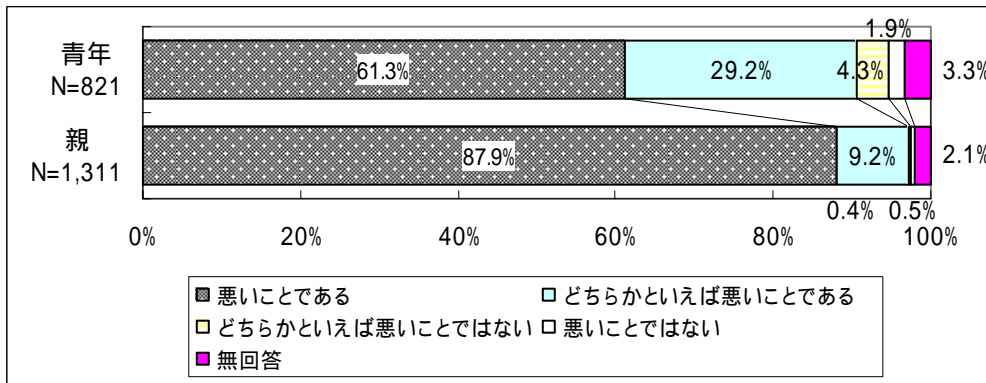


今の家庭生活に満足と答えた『親』は約8割である。

1 5 犯罪に対する意識(対象 = 青年及び親)

(1)傘立てにある他人の傘を持って帰る

(本文:青年 P96、親 P153)



傘立てにある他人の傘を持って帰ることは悪いことだと答えた『青年』は91%、『親』は97%である。親の規範意識が非常に高い。

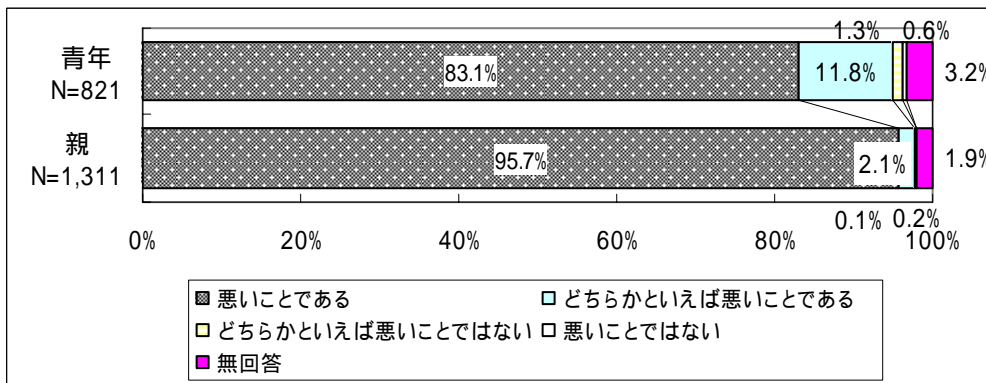
『青年』を年代別で見ると、悪いこと(悪いこと+どちらかといえば悪いこと)は、家族形成期(25~29歳)で95%と最も高く、高校在学期(15~18歳)で85%と最も低い。

・青年 = 悪いこと 90.5% (悪いこと 61.3% + どちらかといえば悪いこと 29.2%)

・親 = 悪いこと 97.1% (悪いこと 87.9% + どちらかといえば悪いこと 9.2%)

(2)駅前などに置いてある他人の自転車を勝手に使う

(本文:青年 P97、親 P154)



駅前などに置いてある他人の自転車を勝手に使うことは悪いことだと答えた『青年』は95%、『親』は97%である。ともに規範意識が非常に高い。

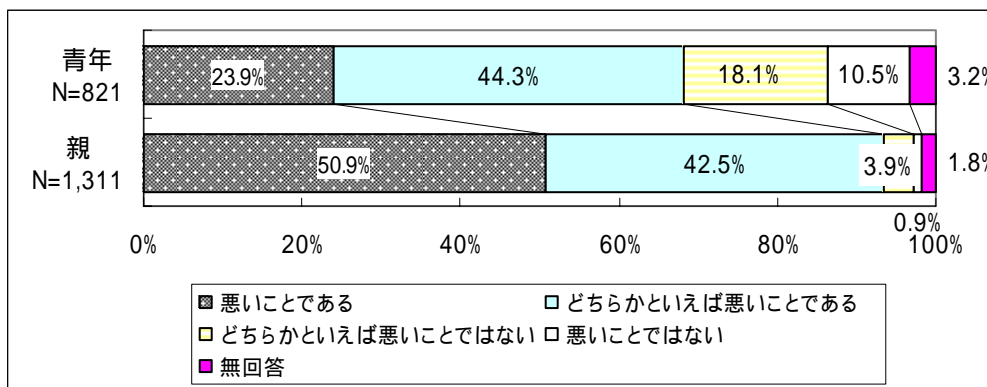
『青年』を年代別で見ると、悪いこと(悪いこと+どちらかといえば悪いこと)は、大学在学期(19~22歳)で97%と最も高い。

・青年 = 悪いこと 94.9% (悪いこと 83.1% + どちらかといえば悪いこと 11.8%)

・親 = 悪いこと 97.8% (悪いこと 95.7% + どちらかといえば悪いこと 2.1%)

(3) 未成年者がお酒を飲む

(本文: 青年 P98、親 P155)

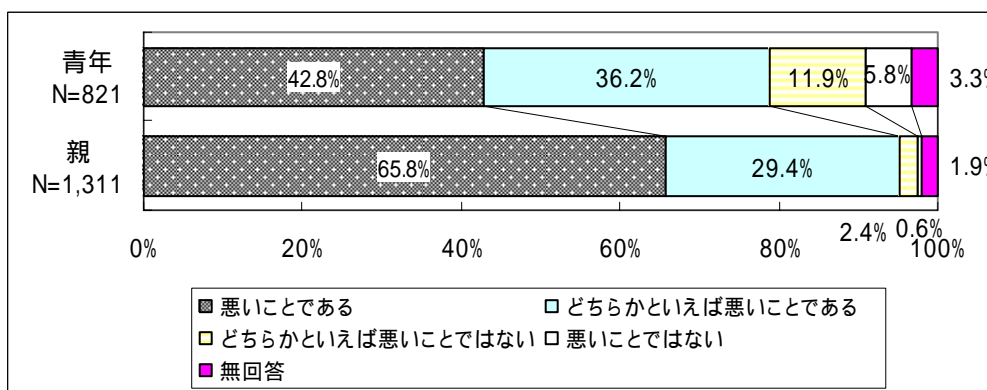


未成年者がお酒を飲むことは悪いことだと答えた『青年』は 68%、『親』は 93%である。その差は 25 ポイント。『青年』を性・年代別で見ると、すべての年代で女性の規範意識が高く、家族形成期女性(25~29歳)で 87%(悪いこと+どちらかといえば悪いこと)と最も高い。

- ・青年 = 悪いこと 68.2%(悪いこと 23.9% + どちらかといえば悪いこと 44.3%)
- ・親 = 悪いこと 93.4%(悪いこと 50.9% + どちらかといえば悪いこと 42.5%)

(4) 未成年者がタバコを吸う

(本文: 青年 P99、親 P156)

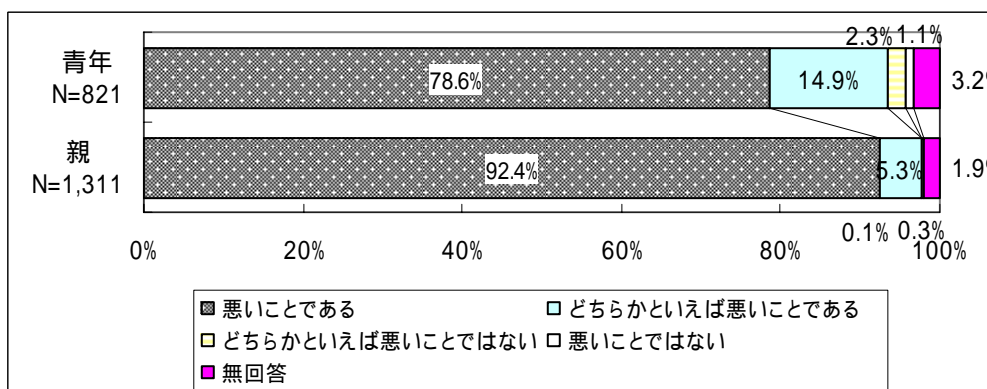


未成年者がタバコを吸うことは悪いことだと答えた『青年』は 79%、『親』は 95%である。その差は 16 ポイント。『青年』を年代別で見ると、悪いこと(悪いこと+どちらかといえば悪いこと)は家族形成期(25~29歳)で 82%と最も高い。

- ・青年 = 悪いこと 79.0%(悪いこと 42.8% + どちらかといえば悪いこと 36.2%)
- ・親 = 悪いこと 95.2%(悪いこと 65.8% + どちらかといえば悪いこと 29.4%)

(5) 道路を車やバイクで暴走する(暴走族)

(本文: 青年 P100、親 P157)

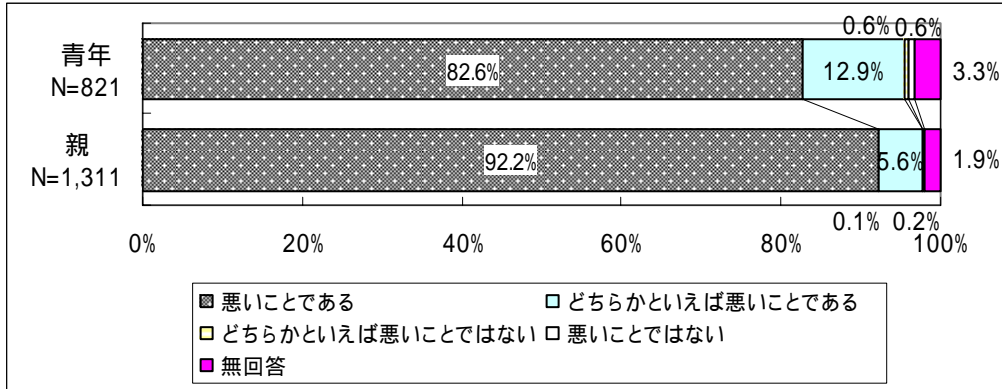


道路を車やバイクで暴走することが悪いことだと答えた『青年』は 94%、『親』は 98%である。ともに規範意識が非常に高い。『青年』を年代別で見ると、悪いこと(悪いこと+どちらかといえば悪いこと)は大学在学期(19~22歳)で 97%と最も高い。

- ・青年 = 悪いこと 93.5%(悪いこと 78.6% + どちらかといえば悪いこと 14.9%)
- ・親 = 悪いこと 97.7%(悪いこと 92.4% + どちらかといえば悪いこと 5.3%)

(6) 電信柱や人の家の塀に落書きをする

(本文: 青年 P101、親 P158)

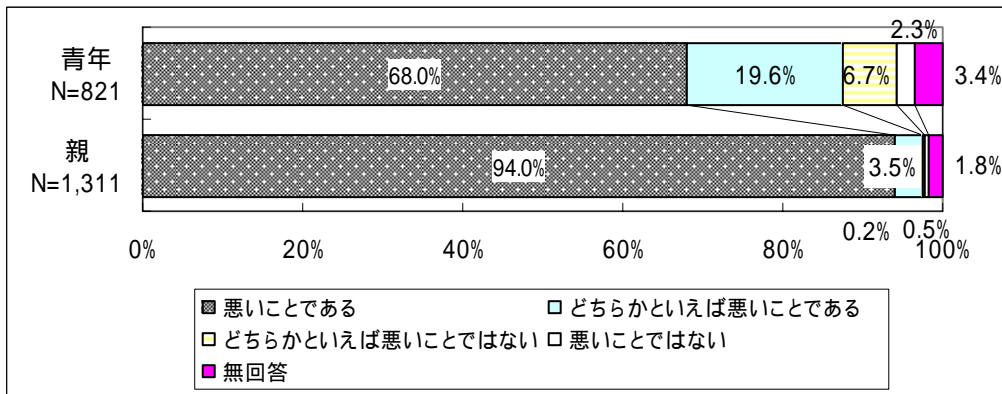


電信柱や人の家の塀に落書きをすることが悪いことだと、『青年』の96%、『親』の98%が回答。ともに規範意識が非常に高い。『青年』を年代別で見ると、大学在学期(19~22歳)と家族形成期(25~29歳)でともに97%と最も高い。

- ・ 青年 = 悪いこと 95.5% (悪いこと 82.6% + どちらかといえば悪いこと 12.9%)
- ・ 親 = 悪いこと 97.8% (悪いこと 92.2% + どちらかといえば悪いこと 5.6%)

(7) 援助交際をする(お金をもらってセックスをする)

(本文: 青年 P102、親 P159)

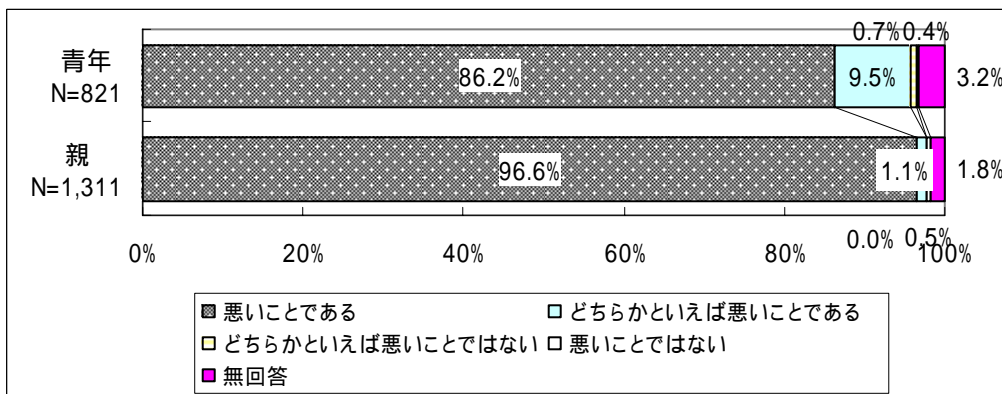


援助交際をすることが悪いことだと、『青年』の88%、『親』の98%が回答。『青年』よりも『親』の規範意識が1割高い。『青年』を年代別で見ると、家族形成期(25~29歳)で悪いこと(悪いこと+どちらかといえば悪いこと)が90%と最も高い。

- ・ 青年 = 悪いこと 87.6% (悪いこと 68.0% + どちらかといえば悪いこと 19.6%)
- ・ 親 = 悪いこと 97.5% (悪いこと 94.0% + どちらかといえば悪いこと 3.5%)

(8) 万引きをする

(本文: 青年 P103、親 P160)

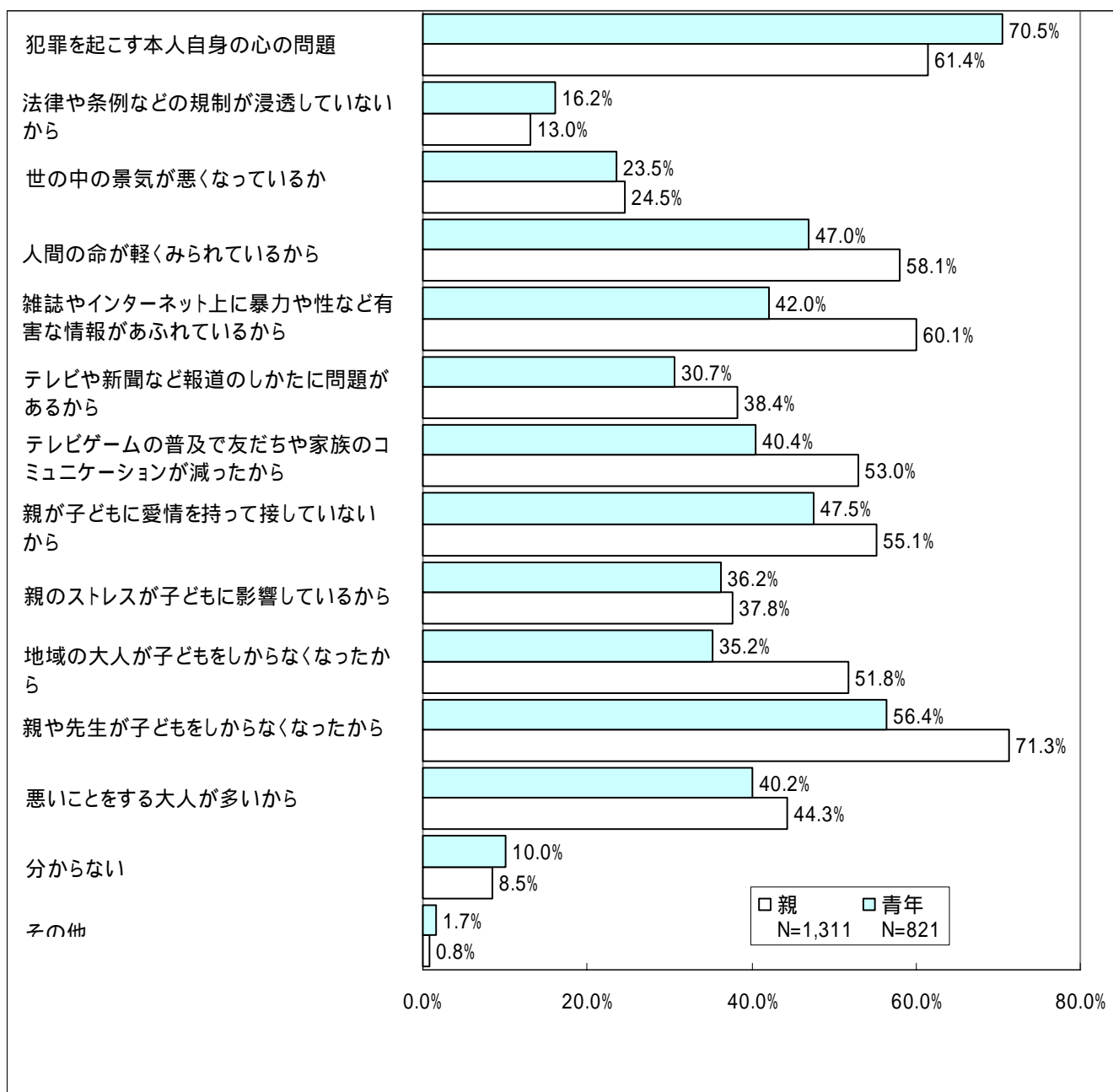


万引きをすることが悪いことだと、『青年』の96%、『親』の98%が回答。ともに規範意識が非常に高い。『青年』を性・年代別で見ると、大学在学期(19~22歳)で悪いこと(悪いこと+どちらかといえば悪いこと)が98%と最も高い。

- ・ 青年 = 悪いこと 95.7% (悪いこと 86.2% + どちらかといえば悪いこと 9.5%)
- ・ 親 = 悪いこと 97.7% (悪いこと 96.6% + どちらかといえば悪いこと 1.1%)

(9)少年犯罪の原因

(本文:青年 P104、親 P162)



少年犯罪の原因は『青年』は、「犯罪を起こす本人自身の心の問題」(71%)が最も多く、『親』では「親や先生が子どもをしからなくなったから」(71%)が最も多い。

- ・青年 第1位 「犯罪を起こす本人自身の心の問題」71%
第2位 「親や先生が子どもをしからなくなったから」56%
第3位 「親が愛情を持って子どもに接していないから」48%
- ・親 第1位 「親や先生が子どもをしからなくなったから」71%
第2位 「犯罪を起こす本人自身の心の問題」61%
第3位 「雑誌やインターネットに暴力や性など有害な情報があふれているから」60%